

2026年3月期 Q2決算説明資料

決算発表 : 2025年10月29日

決算説明会 : 2025年10月30日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場 : 7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © 2025 Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.



...for patient comfort.

1. 2026年3月期 上期決算
2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 2026年3月期 上期決算
2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

	2026/3期 上期
売上高	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">過去最高</div> 29,285 百万円 (前年同期比 + 4.6%)
営業利益	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">過去最高</div> 6,620 百万円 (前年同期比 + 5.7%)
純利益*1	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block;">過去最高</div> 4,774 百万円 (前年同期比 + 7.7%)

決算ハイライト

増収増益

(売上高・営業利益・純利益は上期として過去最高)

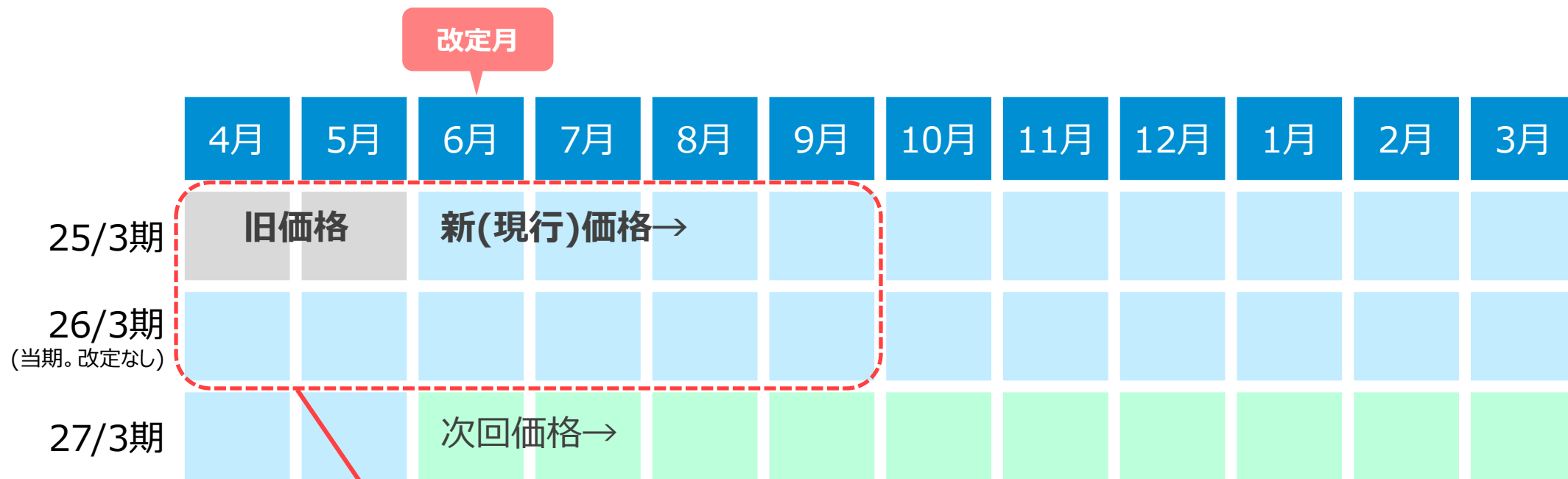
- | | |
|------|---|
| 外部要因 | (+) AF症例数は前年同期比10%増加
(-) 一部製品にPFA*2の影響
(-) 公定価格の改定(影響2か月)*3 |
| 内部要因 | (+) コア製品群*4は総じて堅調
(+) 新領域は前年同期比38.4%増加
(+) 貸倒債権を一部回収(一過性要因) |

*1 親会社株主に帰属する中間純利益 *2 Pulsed Field Ablation (パルスフィールドアブレーション) *3 2024年6月に公定価格が改定。2025年4月、5月の販売単価は前年同月比で下落

*4 競争力が高く特に注力する4つの製品 ⇒ ①心腔内除細動カテーテル「BeeAT」(=EP/アブレーション)、②大腿静脈用止血デバイス(=EP/アブレーション)、③S-ICD(=リズムデバイス)、④Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク)(=心血管関連)

(補足)公定価格の改定による販売単価下落について

✓ 医療機器の公定価格の改定頻度は2年に1回。2024年から改定月が6月に変更された



今回の上期比較では、**2か月分の新旧価格の差が生じる(減収/減益要因)**

前回=2024/6改定の例：

- ペースメーカー(4型) ¥454,000 → ¥391,000 (▲13.9%)
- S-ICD(本体) ¥3,120,000 → ¥3,120,000 (変更なし) ※コア製品
- EPカテーテル(冠状静脈洞型) ¥66,100 → ¥64,000 (▲3.2%)
- 心腔内除細動カテーテル ¥214,000 → ¥214,000 (変更なし) ※コア製品
- 人工血管(ストレート) ¥117,000 → ¥110,000 (▲6.0%)
- FET(4分岐型) ¥1,430,000 → ¥1,430,000 (変更なし) ※コア製品

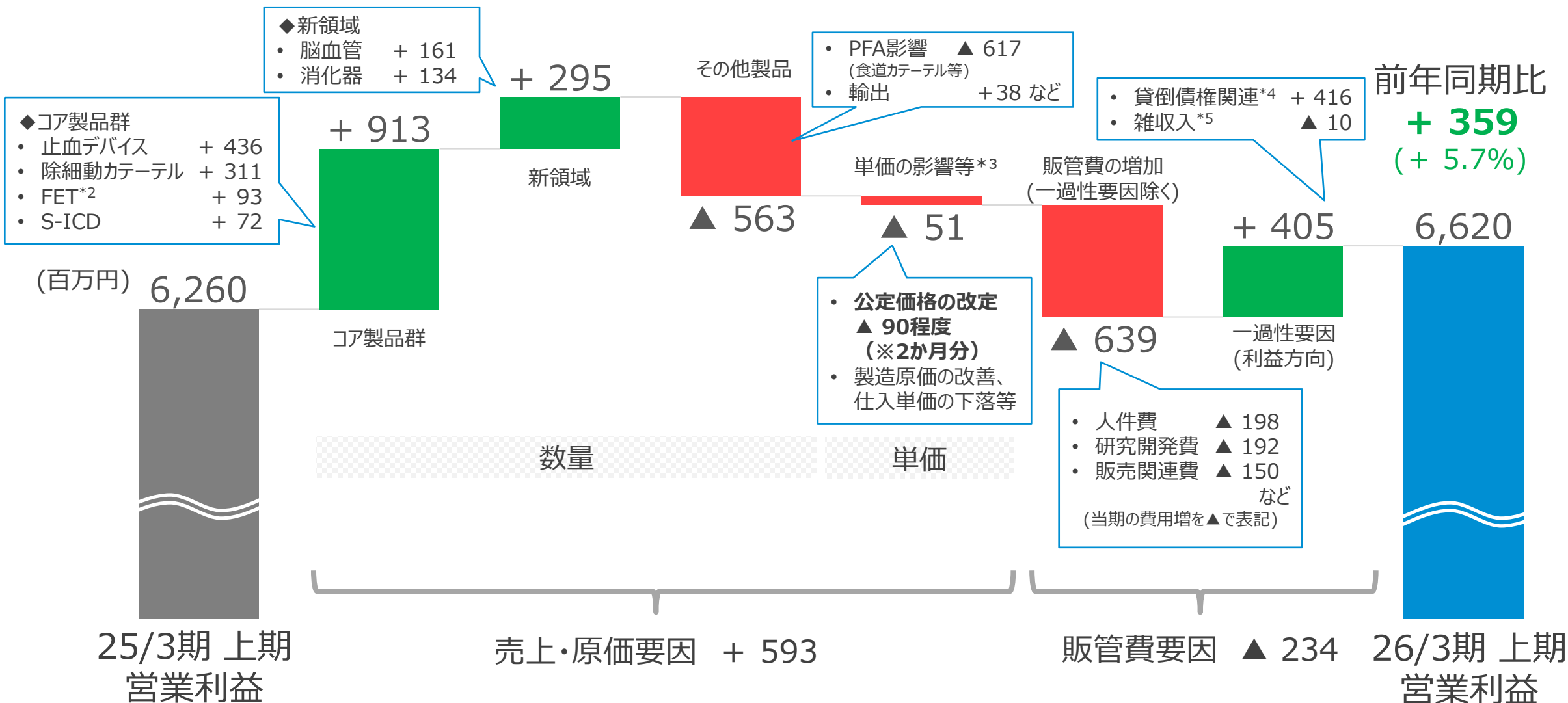
✓ 増収増益。売上高・営業利益・純利益は**上期として過去最高**を更新

(百万円)	2025/3期 上期	2026/3期 上期	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	27,985	過去最高 29,285	+ 1,299	+ 4.6	(+) 症例増による数量増加 (+) 新領域の拡大
売上総利益	16,963	17,557	+ 593	+ 3.5	(+) 症例増による数量増加 (-) 公定価格の下落(影響2か月分)
%	60.6%	60.0%		▲ 0.6pp	(-) 製品ミックス
販管費	10,703	10,937	+ 234	+ 2.2	次ページで詳細説明
営業利益	6,260	過去最高 6,620	+ 359	+ 5.7	次ページで詳細説明
%	22.4%	22.6%		+ 0.2pp	
純利益 ^{*1}	4,435	過去最高 4,774	+ 339	+ 7.7	
%	15.8%	16.3%		+ 0.5pp	
自社製品比率	57.6%	55.1%		▲ 2.5pp	脳血管・止血デバイス等の仕入商品の拡大 食道カテーテル等の自社製品の減少 ^{*2}
海外売上高比率	2.0 %	2.6%		+ 0.6pp	
1株当たり利益	61.87円	68.08円	+ 6.21円	+ 10.0	(+) 自己株式の取得&消却(2024/5)

*1 親会社株主に帰属する中間純利益 *2 自社製品売上高 0.1%増収、仕入商品売上高 10.7%増収

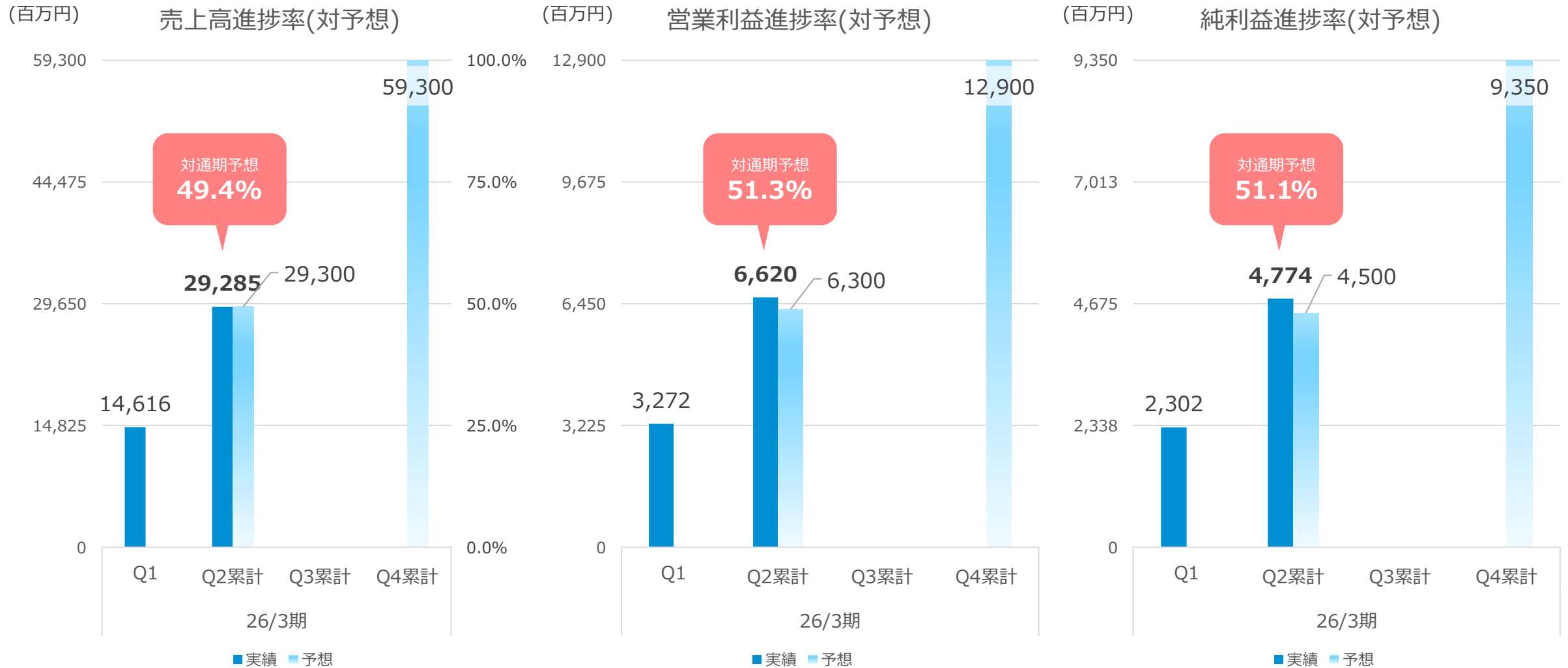
2026/3期 上期 営業利益の増減分析

✓ コア製品群*1と新領域が堅調でPFA影響をカバー。販管費は増加も貸倒債権回収があり増益



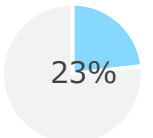
*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントランク) *3 主な内訳は販売単価や原価単価の増減。製品廃棄・評価損の影響等を含む *4 前年同期に取引先1件の貸倒引当金繰入216百万円を計上、当期に貸倒引当金戻入199百万円を計上 (いずれもネットの金額) *5 Baylis社製品の販売契約終了に伴う在庫移管に関連する雑収入等

✓ 売上・利益ともほぼ期初の予想通りに進捗



既存領域 【構成比94%】*1

リズムデバイス



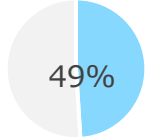
- **不整脈**を治療する体内植込み型機器など



【コア製品】
S-ICD

安定事業

EP/アブレーション



- **不整脈**手術で使われる医療用管など



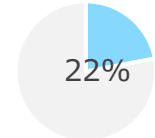
【コア製品】
心腔内除細動
カテーテル



【コア製品】
止血デバイス

中核事業

心血管関連



- **大動脈**の外科手術で使われる人工臓器など

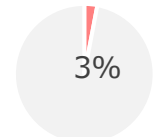


【コア製品】
FET



新領域 【構成比6%】*1

脳血管関連



- **脳血管**の詰まりを解消する管など



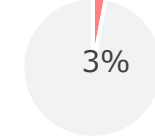
血栓吸引カテーテル



塞栓用コイル

成長事業

消化器



- **消化器**の詰まりを解消するステントなど



胆管チューブステント

*1 構成比は25/3期実績

- ✓ 医療機器が手術で使用されるたびに売上が発生する
- ✓ 手術件数が増えるほど、売上が増加する

売上高

=

数量

×

単価

手術件数
(症例数)

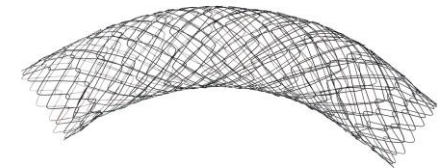
×

当社シェア

公定価格
(保険償還価格)

×

掛率
(代理店卸値)

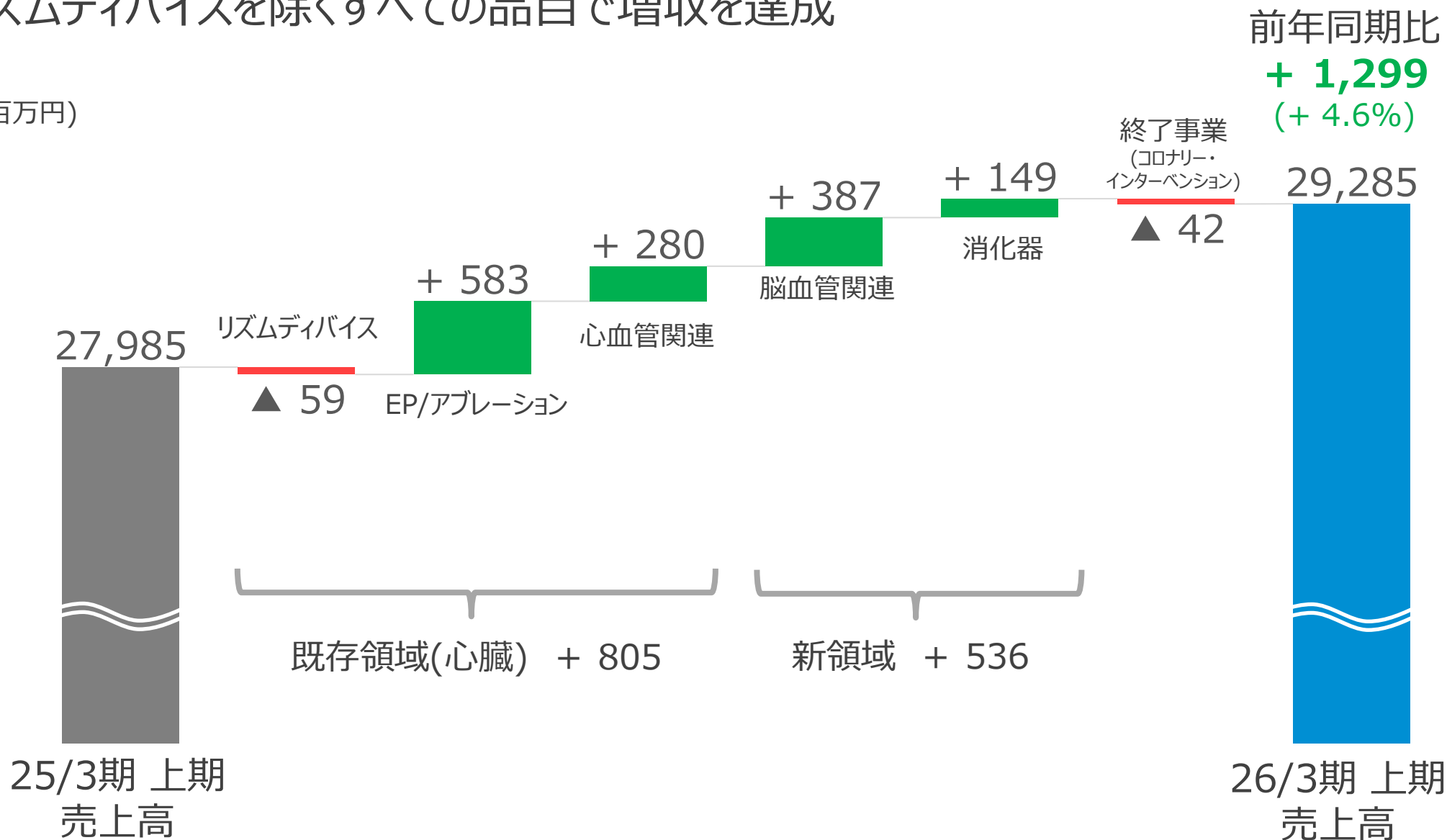


取扱製品のほとんどが、手術で使用される使い切りの医療機器

2026/3期上期 売上高 前年同期比較

✓ リズムデバイスを除くすべての品目で増収を達成

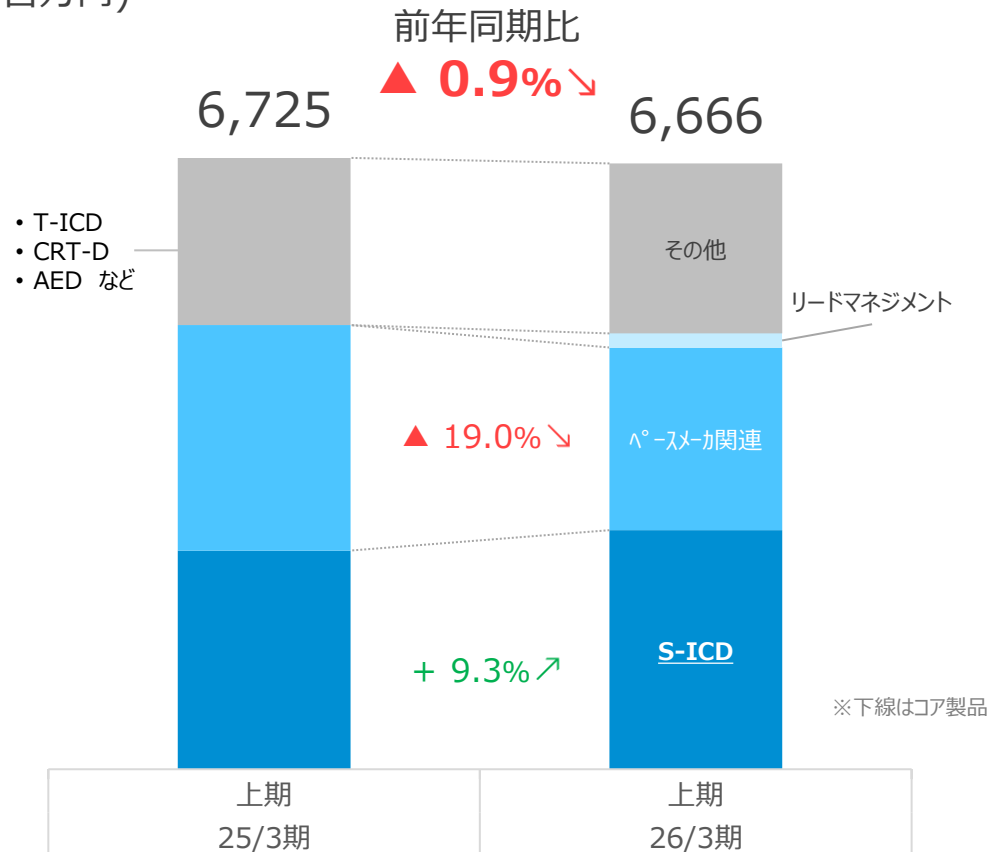
(百万円)



コア製品のS-ICDが好調に推移し、前期並みを確保

リズムデバイス 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) コア製品のS-ICD 9.3%増収

- 予防的植込み*1の増加により、症例数は増加傾向
- 新規症例で他社の新製品の影響を受けるも、交換症例が想定より堅調

(-) ペースメカ関連 19.0%減収

- 他社のリードペースメカの浸透(新規市場の約30~35%)が逆風
- 公定価格改定の影響(2か月分、約14%下落)

(+) リードマネジメント製品 Q1より販売開始



S-ICD
「EMBLEM S-ICD」
(ボストンサイエンティフィック社製)



エキスマレーザ心内リード抜去システム
「GlideLight レーザシース」
(フィリップス社製)

*1 心臓突然死を予防する目的で、致死的不整脈の発症前にICDを植え込むこと

パルスフィールドアブレーション(PFA)^{*1}の浸透がある中でもコア製品は好調

EP/アブレーション 売上高

(百万円)

前年同期比
+ 4.1% ↗

14,123

14,707

- ・アブレーションカテーテル
- ・ステイラブルシース
- ・輸出 など

その他

EPカテーテル^{*2}

▲ 4.9% ↘

▲ 49.1% ↘

2.1倍 ↗

食道温モニタリング
カテーテル

止血デバイス

+ 6.5% ↗

心腔内除細動カ
テーテル

※下線はコア製品

上期
25/3期

上期
26/3期

大腿静脈用止血デバイス
「VASCADE MVP」
(ヘモネクス社製)

市況 & 販売ハイライト

(+) 心房細動(AF)症例の増加 前年同期比+10%

(+) コア製品の心腔内除細動カテーテル 6.5%増収

- ほぼ期初の想定通りに進捗
- 推定シェア96%(9月)

(+) コア製品の止血デバイス 前年同期比 2.1倍

- ハイボリューム施設での新規採用、中小規模施設へも拡大

(-) PFAの影響

- PFAはAF症例全体の6割まで普及か(9月)
- 食道温モニタリングカテーテル 49.1%減収 (PFAで不要)
- EPカテーテル^{*2} 4.9%減収 (PFAで使用本数が減少)

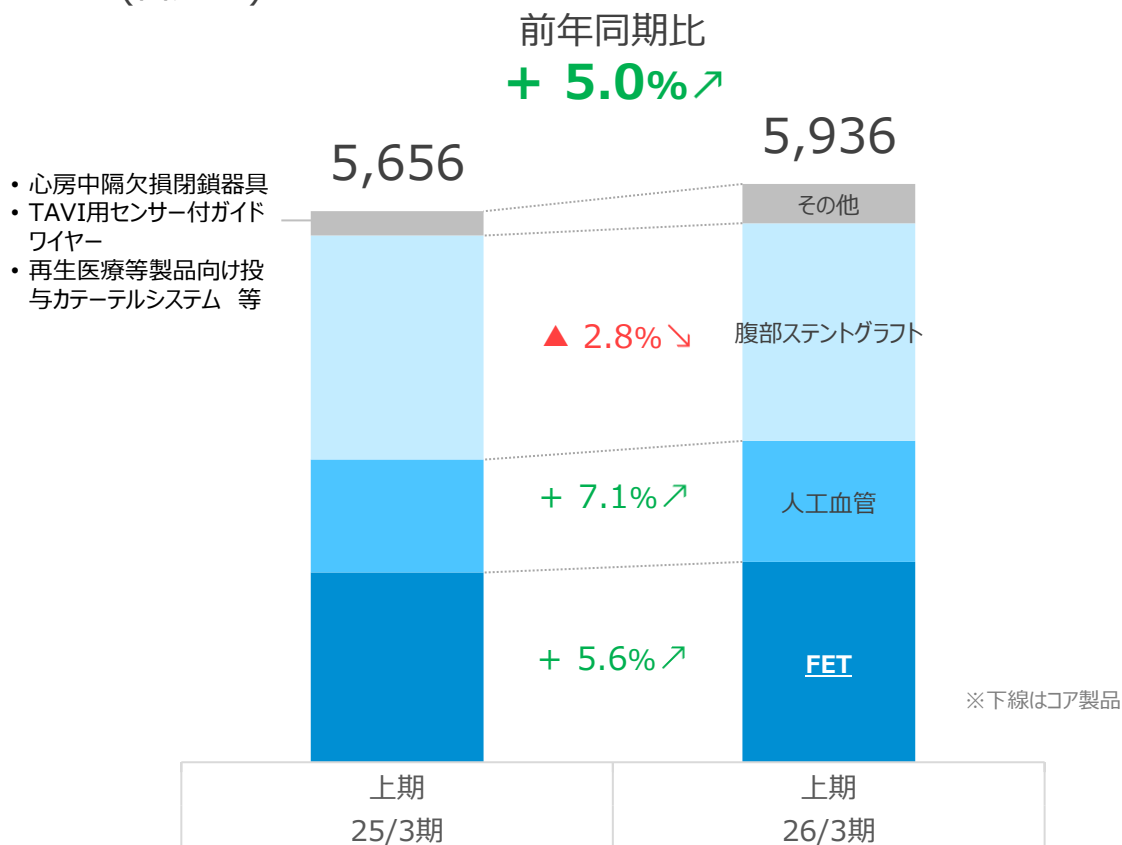
今後、PFAの浸透がさらに進む場合、トータルでは業績にポジティブ
⇒ 症例数増加が、心腔内除細動カテーテルや止血デバイスに追い風

*1 外資メーカー3社が推進しているカテーテルアブレーションの新しい治療法 *2 心腔内除細動カテーテルおよび食道温モニタリングカテーテルを除く電極カテーテル

Frozen Elephant Trunk (FET)^{*1}が成長をけん引

心血管関連 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) コア製品のFET 5.6%増収

- Q2でFET症例数が一時的に減少 ⇒ 期初予想に対しては若干未達
- Q3以降の需要期を見据え、FET関連のセミナー企画等を精力的に実施

(+) 人工血管 7.1%増収

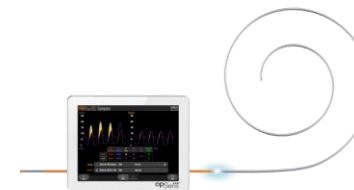
(-) 腹部ステントグラフト 2.8%減収

(+) その他

- ヘモネティクス社のTAVI^{*2}用センサー付ガイドワイヤーを取り扱い開始
- 再生医療のHeartseed社と協業開始。投与カテーテルシステムを販売



FET 人工血管一体型
「Frozenix 4 Branched」
(自社製品)



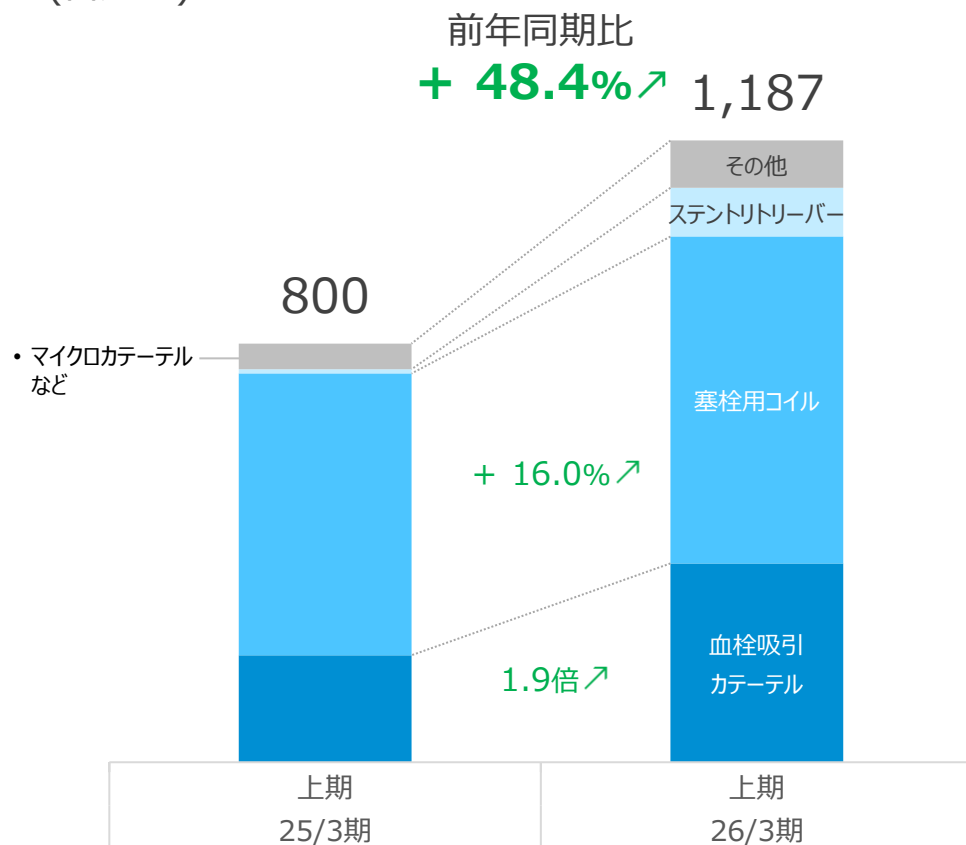
TAVI用センサー付ガイドワイヤー
「SavvyWire」
(ヘモネティクス社製)

*1 FET：大動脈疾患の開胸手術で使われる末梢側にステントがついている人工血管 *2 TAVI=Transcatheter Aortic Valve Implantation (経カテーテル的大動脈弁植込術)

血栓吸引カテーテルを中心に高成長が継続

脳血管関連 売上高

(百万円)



市況 & 販売ハイライト

(+) 血栓吸引カテーテル 前年同期比 1.9倍

- Q1にローンチした末梢血管向けの新モデルが大きくけん引
- 推定シェア20%(9月)、業界3番手ポジションへ

(+) 塞栓用コイル 16.0%増収

- 放射線科向けの新モデルで脳血管以外の市場も開拓

(+) スtentリトリーバー 堅調に伸ばす



血栓吸引カテーテル
「Esperance 3+」
(ワビーメディカル社製、
末梢血管向けモデル)



塞栓用コイル
「MEGANir HELICAL」
(ワビーメディカル社製、
放射線科向けモデル)



Stentリトリーバー
「pRESET」
(フェノックス社製、
※ワビーメディカルグループ)

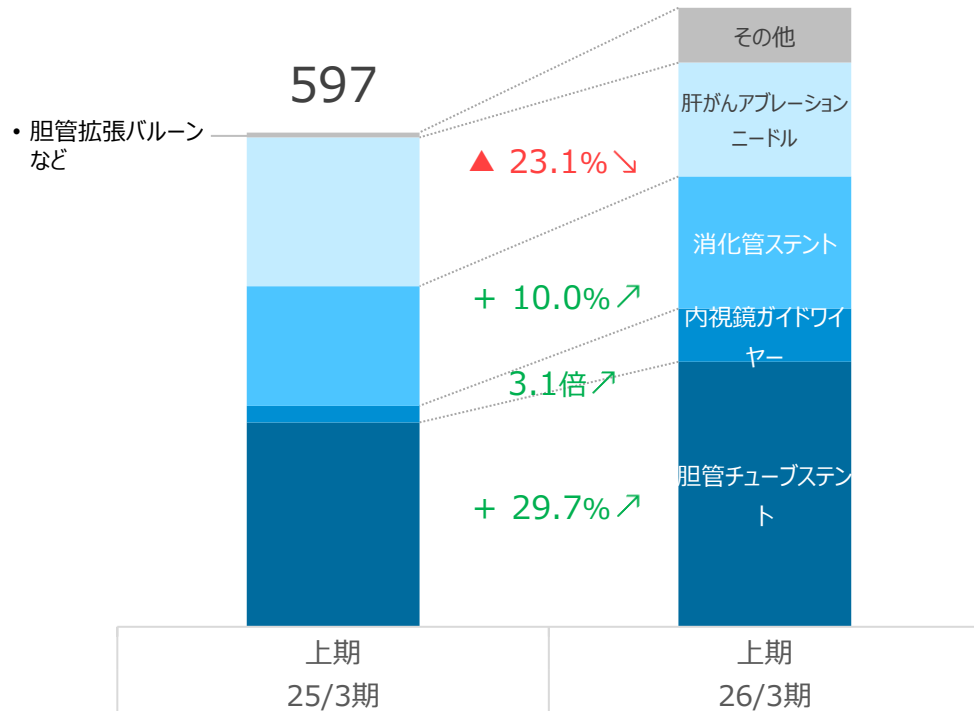
胆管チューブステントの成長が加速

消化器 売上高

(百万円)

PCI*¹含まない消化器のみ*²
前年同期比

+ 25.0% ↗ 747



市況 & 販売ハイライト

(+) 胆管チューブステント 29.7%増収

- Q1上市の新モデルが想定以上に好評

(+) 内視鏡ガイドワイヤー 前年同期比 3.1倍

- 着実に伸ばすも、想定より販売に遅れ

(+) 消化管ステント 10.0%増収

- 前年同期に胃・十二指腸用ステントで自主回収

(-) 肝がんアブレーションニードル 23.1%減収

- テルモ社へ販売移管、販売単価が減少



既存モデル：ストレートタイプ

胆管チューブステント
「REGULUS」
(自社製品)



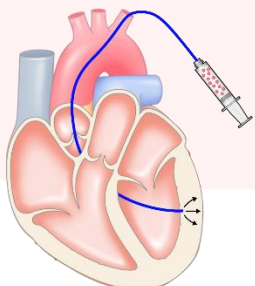
新モデル：ピッグテールタイプ

*1 PCI: Percutaneous Coronary Intervention 虚血性心疾患の経皮的冠動脈治療。24/3期に終了(一部売上が残る) *2 CIを含むベースでは25/3期上期 680百万円 26/3期上期 787百万円 (前年同期比15.7%増収)

- ✓ 再生医療等製品を手掛けるHeartseed社と投与カテーテルシステムを共同開発
([2025/9/11 共同プレスリリース](#))

Heartseed

- **重症心不全**の再生医療でユニークな「**心筋補填療法**」を開発
- 他家iPS細胞由来心筋球を**カテーテルで投与する臨床試験(HS-005)**を計画
- [2025/10/2 治験届提出](#)
[リリース](#)



開胸せず心臓の内側からカテーテルを使って細胞を投与

JL Japan Lifeline

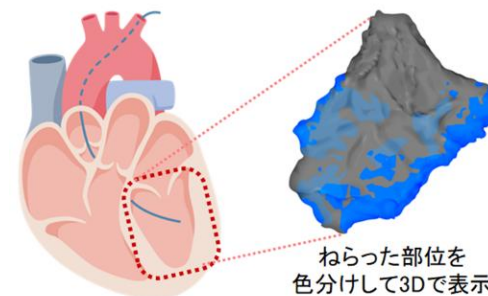
- 不整脈診断カテーテルで**トップシェア**の実績
- 再生医療向けのカテーテルの開発&臨床実績あり
(**国内唯一**)
- 細胞投与時の**安全を確保**するための**独自構造・特許**

投与カテーテルシステムを共同開発

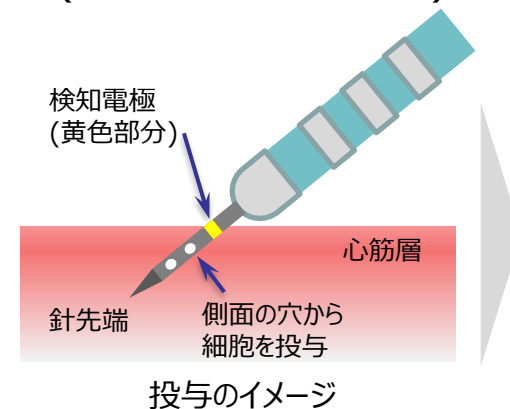


投与の安全性を確保するための独自構造について

- ① 3Dマッピングに対応、視覚的なカテ操作 & 投与位置確認



- ② 投与針の細胞吐出口が心筋に到達したことを検知する仕組み
(特許第7368599号)



検知電極が心筋層に到達した時、心電図は赤丸のような特徴的な波形(ST上昇)を示す。このとき、**検知電極より先端側にある細胞吐出孔は心筋に確実に到達している**

トピック② 海外展開の状況

✓ 中東・アジア地域での販売代理店の開拓が順調に進捗

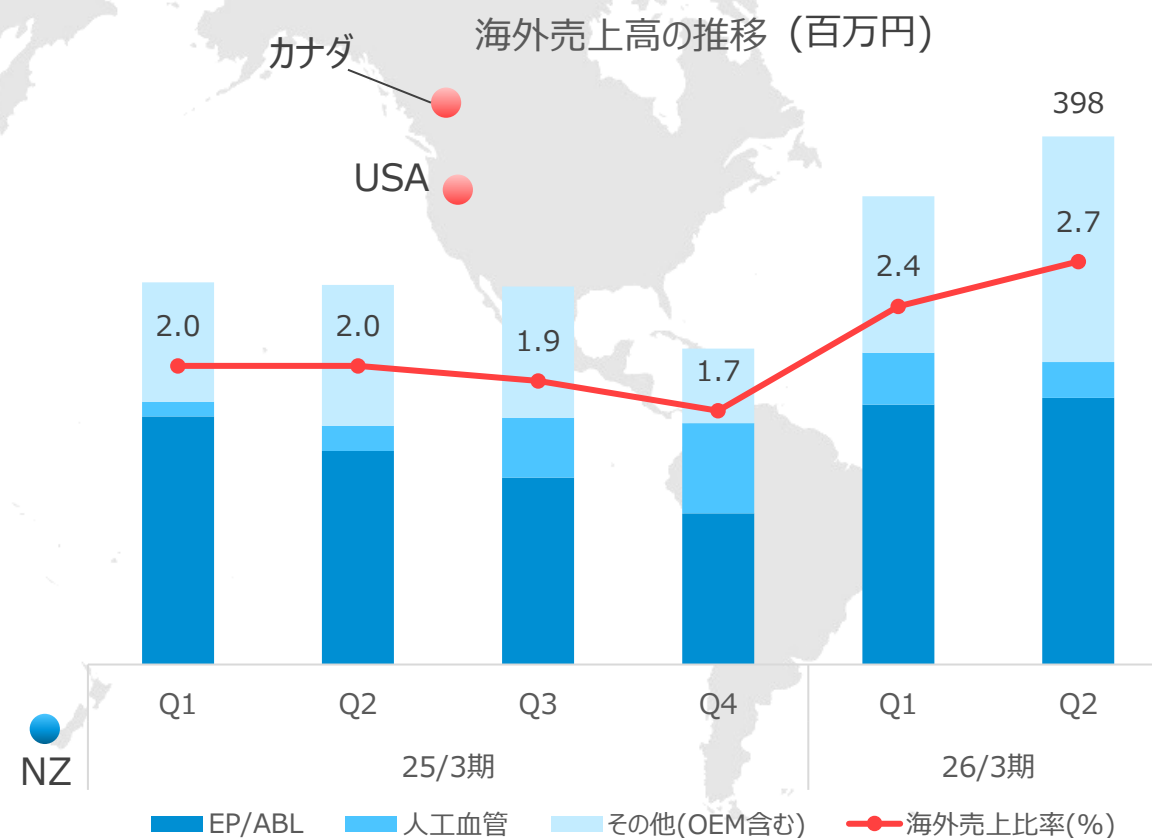


2025年9月末時点



凡例

- 販売代理店契約締結済み
- 契約後、販売開始済み



*1 海外OEM契約(米国とカナダ)を含む

1. 2026年3月期 上期決算

2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 2026年3月期 上期決算
2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

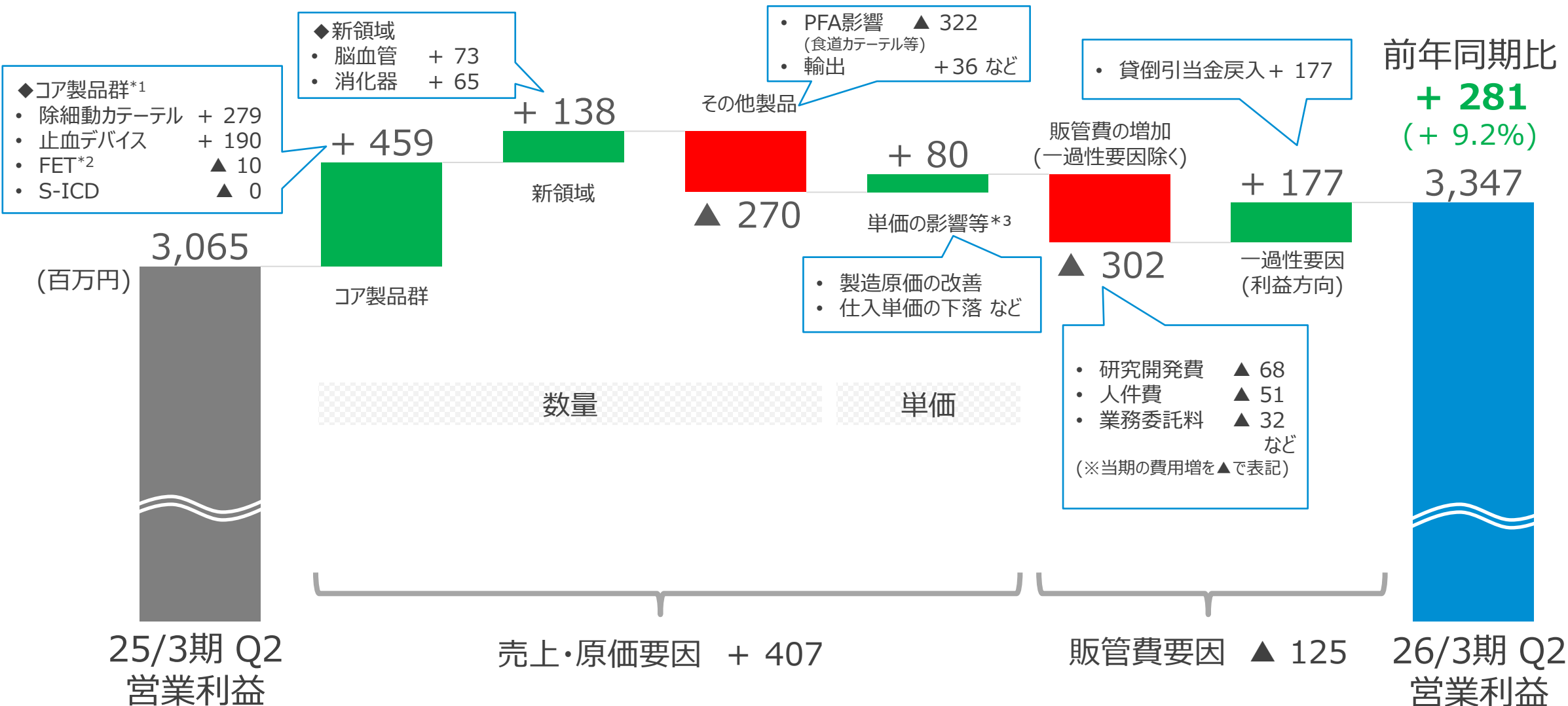
✓ 売上高および各利益はいずれも**第2四半期として過去最高を更新**

(百万円)	2025/3期 Q2	2026/3期 Q2	前年 同期比	前年 同期比%	コメント
売上高	13,974	過去最高 14,668	+ 693	+ 5.0	(+) 症例増による販売増加 (+) 新領域の拡大
売上総利益	8,380	8,787	+ 407	+ 4.9	(+) 症例増による販売増加 (-) 製品ミックス
%	60.0%	59.9%		▲ 0.1pp	
販管費	5,314	5,439	+ 125	+ 2.4	次ページで詳細説明
営業利益	3,065	過去最高 3,347	+ 281	+ 9.2	次ページで詳細説明
%	21.9%	22.8%		+ 0.9pp	
純利益*1	2,094	過去最高 2,472	+ 377	+ 18.0	(+) 為替差損の減少 (+) 受取利息の増加
%	15.0%	16.9%		+ 1.9pp	
自社製品比率	57.0%	54.7%		▲ 2.3pp	脳血管・止血デバイス等の仕入商品の拡大 食道カテーテル等の自社製品の減少*2
海外売上高比率	2.0 %	2.7%		+ 0.7pp	
1株当たり利益	29.88円	35.24円	+ 5.36円	+ 17.9	

*1 親会社株主に帰属する四半期純利益 *2 自社製品売上高 0.6%増収、仕入商品売上高 10.7%増収

2026/3期 Q2(7~9月) 営業利益の増減分析

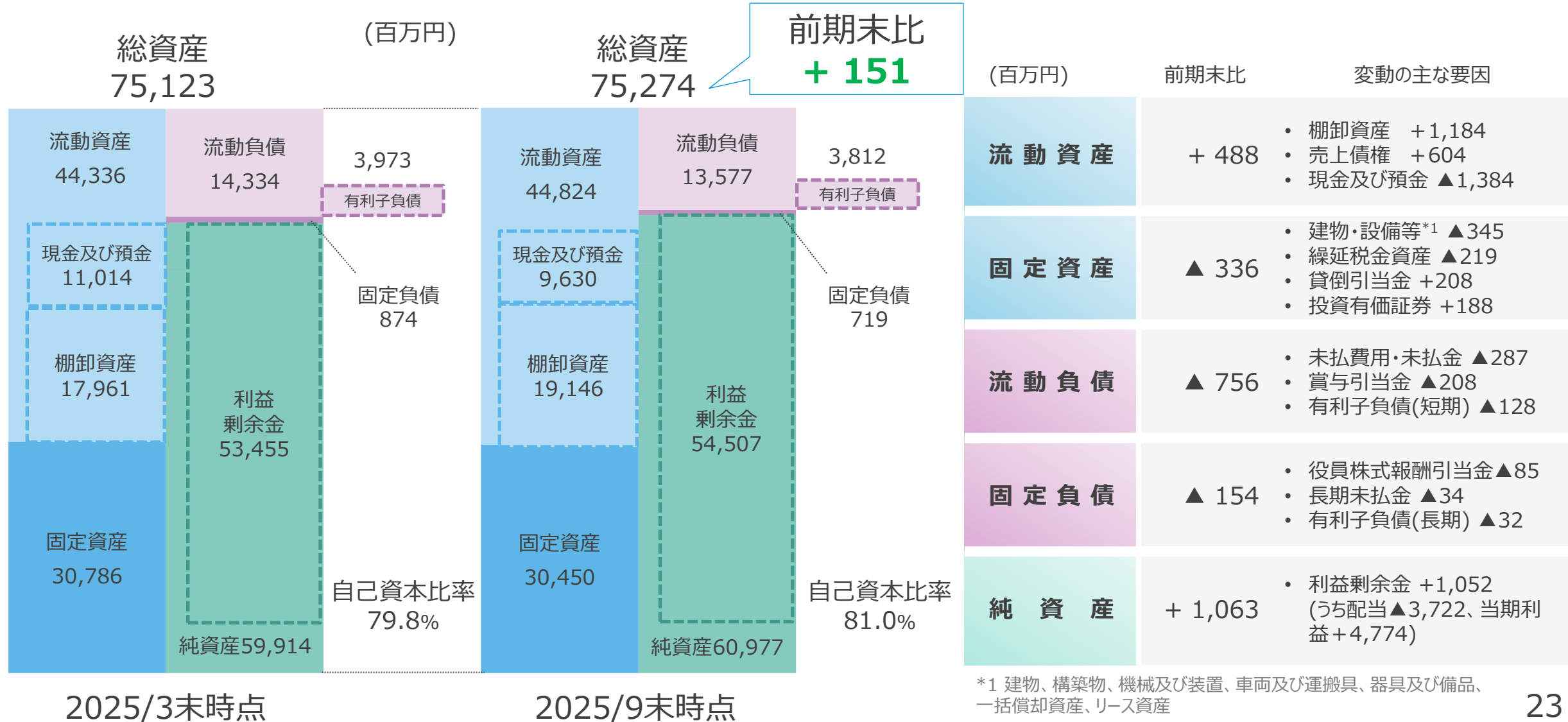
✓ コア製品と新領域の好調でその他のマイナス影響をカバー



*1 競争力が高く特に注力する製品群 *2 Frozen Elephant Trunk (フローズンエレファントトランク) *3 主な内訳は販売単価や原価の増減の影響。製品廃棄・評価損の影響等を含む

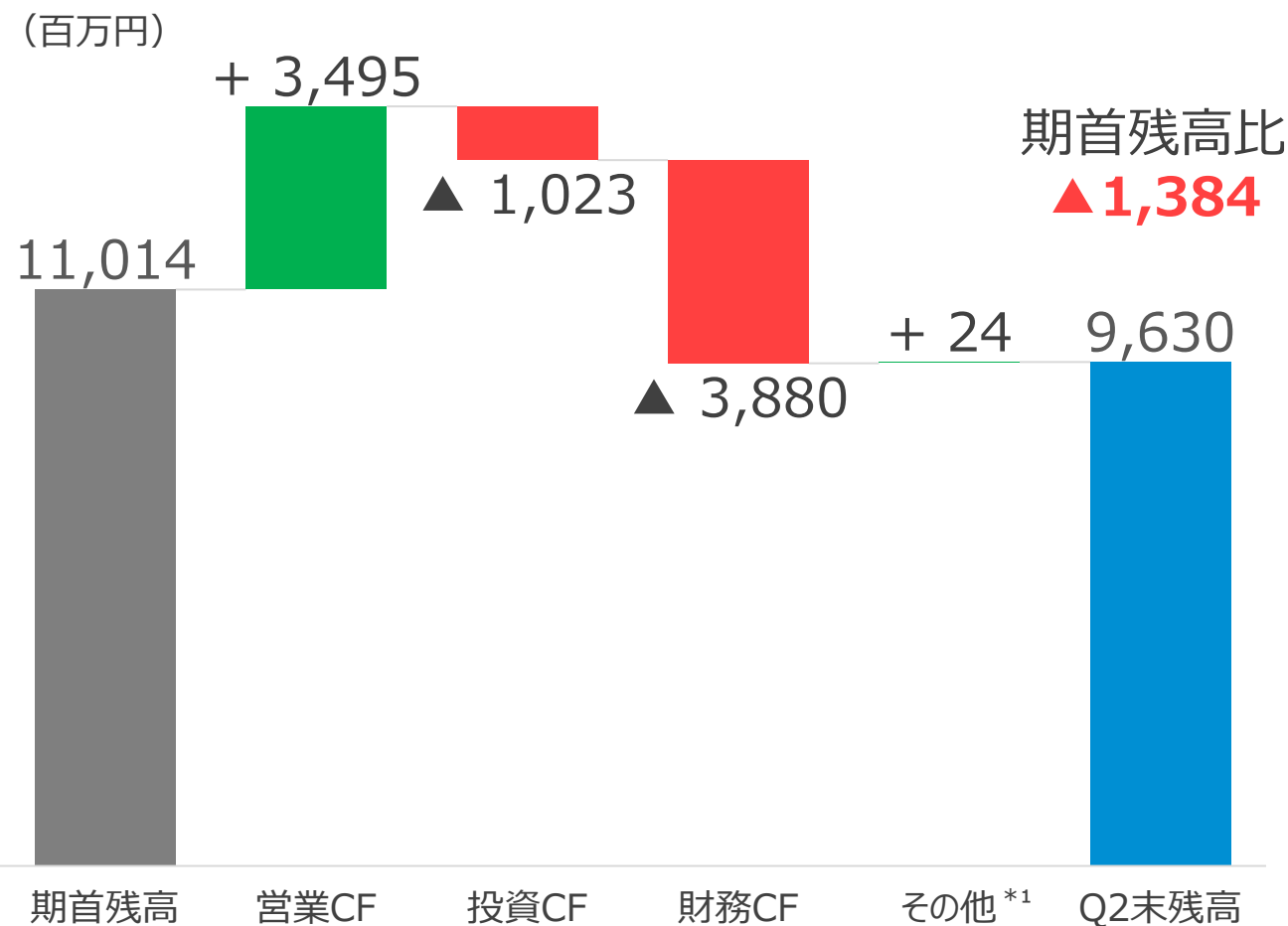
2026/3期 B/Sサマリ (対前期末)

✓ 前期末よりバランスシートはほぼ変動なし



*1 建物、構築物、機械及び装置、車両及び運搬具、器具及び備品、一括償却資産、リース資産

✓ Q2末時点で、現金及び現金同等物は、期首残高から▲1,384百万円減少



項目	金額 (百万円)
■ 営業CF	+ 3,495百万円
【増 加】	
・ 税金等調整前中間純利益	+ 6,582
・ 減価償却費	+ 814
【減 少】	
・ 法人税等の支払額	▲ 1,543
・ 棚卸資産の増加	▲ 1,187
・ 売上債権の増加	▲ 606
■ 投資CF	▲ 1,023百万円
【減 少】	
・ 有形固定資産の取得	▲ 672
■ 財務CF	▲ 3,880百万円
【減 少】	
・ 配当金の支払	▲ 3,718
・ 有利子負債の返済	▲ 161

*1 現金及び現金同等物に係る換算差額

事業環境 現時点から6か月先の見通し

- ✓ YoYベースの見通し(前回までのQoQベースから変更)を矢印で表す
- ✓ 前回の見通しから変更がある場合は、コメントを赤字で記す(今回は変更後初回のためコメントなし)

メイン区分	サブ区分	2026/3期 Q2 実績		2026/3期 Q3 予想		2026/3期 Q4 予想	
		営業日数：62 (前期+0)		営業日数：62 (前期+0)		営業日数：58 (前期+1)	
リズムデバイス	ペースメーカー関連	↓	(-)他社リードレスペースメーカーの影響等	↓	同左	→	(+)リードレス影響一巡
	ICD関連	→	(+)予防的植込で市場拡大 (S-ICD増加) (-)他社新製品	→	同左	→	同左
EP/アブレーション	EPカテーテル	→	(+)AF症例数+13% ※前期学会あり、当期なし (-)PFA拡大の影響	→	(+)AF症例数+10%程度 (-)PFA拡大の影響 ※大きな減収要因となるのはQ3までを想定	↑	(+)AF症例数+10%程度
	その他	↑	(+)止血デバイス	↑	(+)止血デバイス (+)ステイラブルシース拡販	↑	(+)止血デバイス (+)ステイラブルシース拡販 (-)RFニードル販売支援終了
心血管関連	人工血管関連	→	(-)FET・腹部ステントグラフト市場やや鈍化 (+)人工血管	↗	(+)FET持ち直し	↗	(+)FET伸長 (+)腹部ステントグラフト持ち直し (新サイズ)
脳血管関連	脳血管関連	↑	(+)血栓吸引カテ(新モデル) (+)コイル(新モデル) (+)ステントリトリーバー(純増)	↑	(+)血栓吸引カテ・コイル拡大	↑	(+)血栓吸引カテ・コイル拡大 (+)ステントリトリーバー(新モデル)
消化器	消化器 (消化管、胆膵)	↑	(+)胆管チューブステント (新モデル) (+)個々の製品も伸長	↑	(+)胆管チューブステント (+)個々の製品も伸長	↑	同左
全社		↗		↗		↑	

凡例： ↑ or ↓ 1桁後半以上増加 or 減少 ↗ or ↘ 1桁半ば程度増加 or 減少 → 1桁半ば未満増加 or 減少

1. 2026年3月期 上期決算
2. 質疑応答

Appendix 1 補足資料

Appendix 2 インベスターズガイド(サマリー版)

[こちら](#)でファクトシート(Excel/PDF)も開示しておりますので、ぜひご利用ください

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

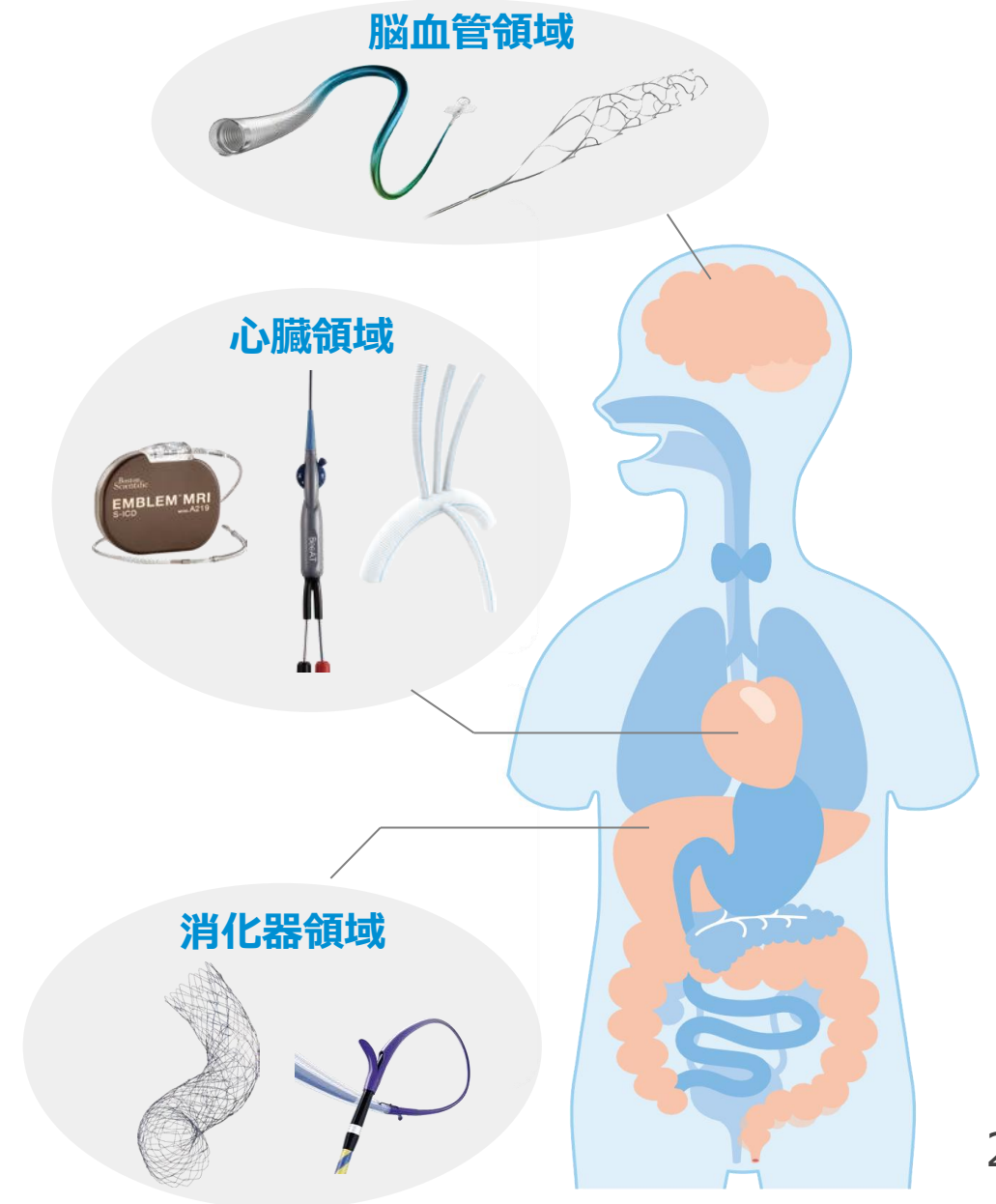
◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

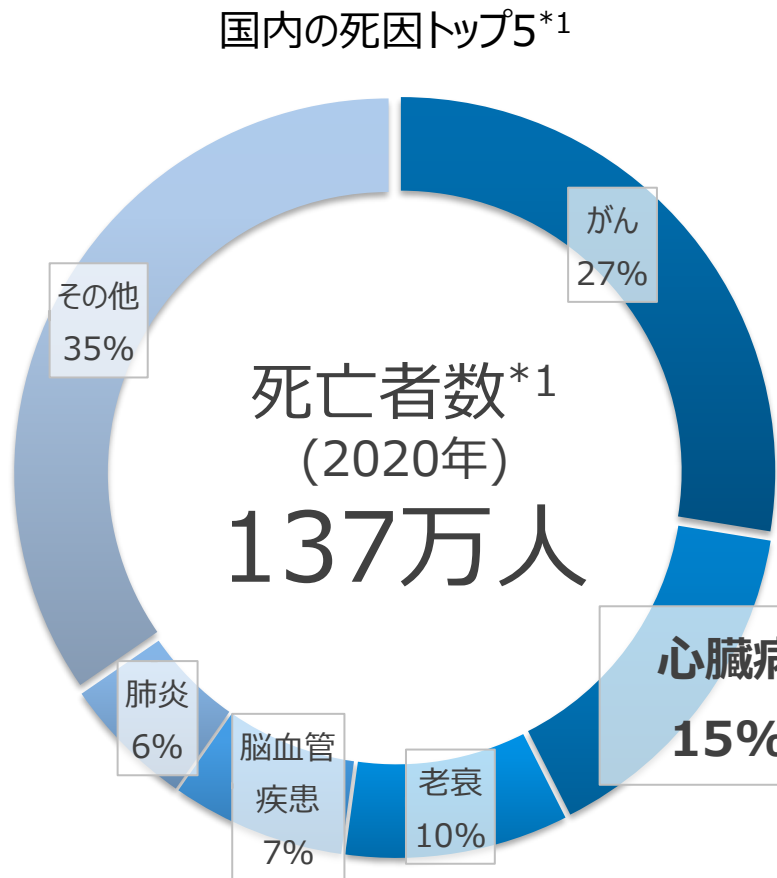
フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



- **心臓領域**の医療機器でニッチトップ
- 生命に関わる**高度管理医療機器**を扱う
- **高利益**(営業利益率20%+)と**高成長**を実現

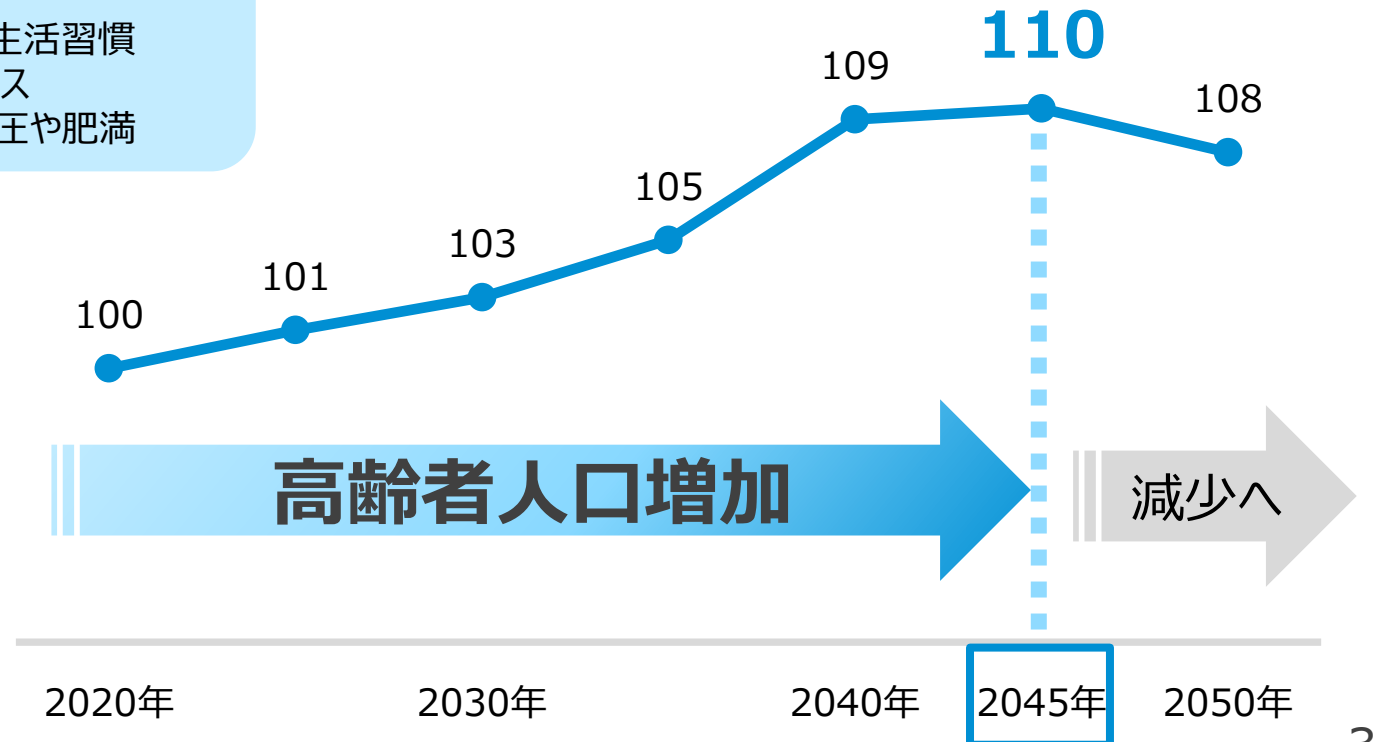


✓ 高齢者の人口増加とともに、今後20年は心臓病関連の医療需要は増加する見通し



- 加齢(最大因子)
- 喫煙
- 悪い生活習慣
- ストレス
- 高血圧や肥満

65歳以上人口の推移予測
(2020年 = 100として指数化)*2



*1 厚生労働省 令和2年(2020年)人口動態統計

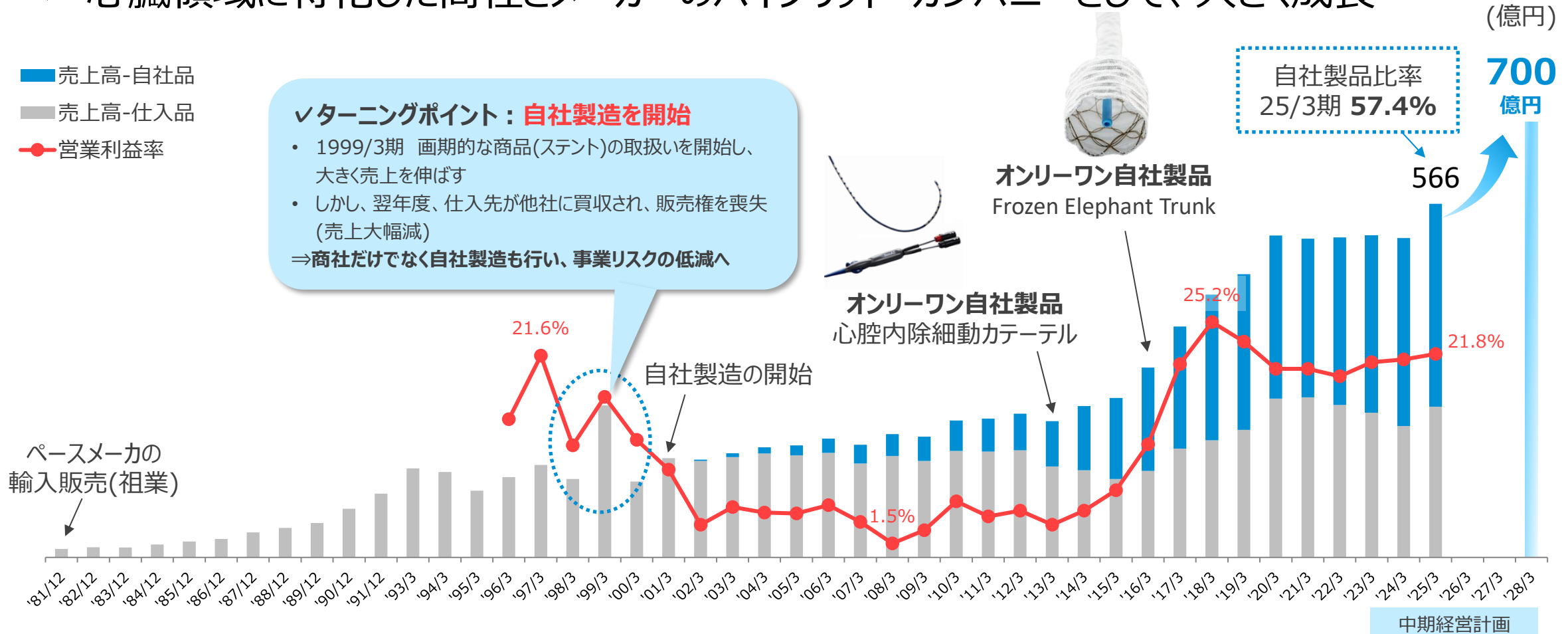
*2 内閣府 令和5年(2023年)版高齢社会白書

✓ 心臓領域に特化した商社とメーカーのハイブリッド・カンパニーとして、大きく成長

■ 売上高-自社品
■ 売上高-仕入品
● 営業利益率

✓ターニングポイント：自社製造を開始

- 1999/3期 画期的な商品(ステント)の取扱いを開始し、大きく売上を伸ばす
 - しかし、翌年度、仕入先が他社に買収され、販売権を喪失(売上大幅減)
- ⇒商社だけでなく自社製造も行い、事業リスクの低減へ



ペースメーカーの輸入販売(祖業)

オンリーワン自社製品
Frozen Elephant Trunk

オンリーワン自社製品
心腔内除細動カテーテル

自社製品比率
25/3期 57.4%

(億円)
700
億円

中期経営計画

商社
1981-2000年

商社+メーカー
2001-2023年

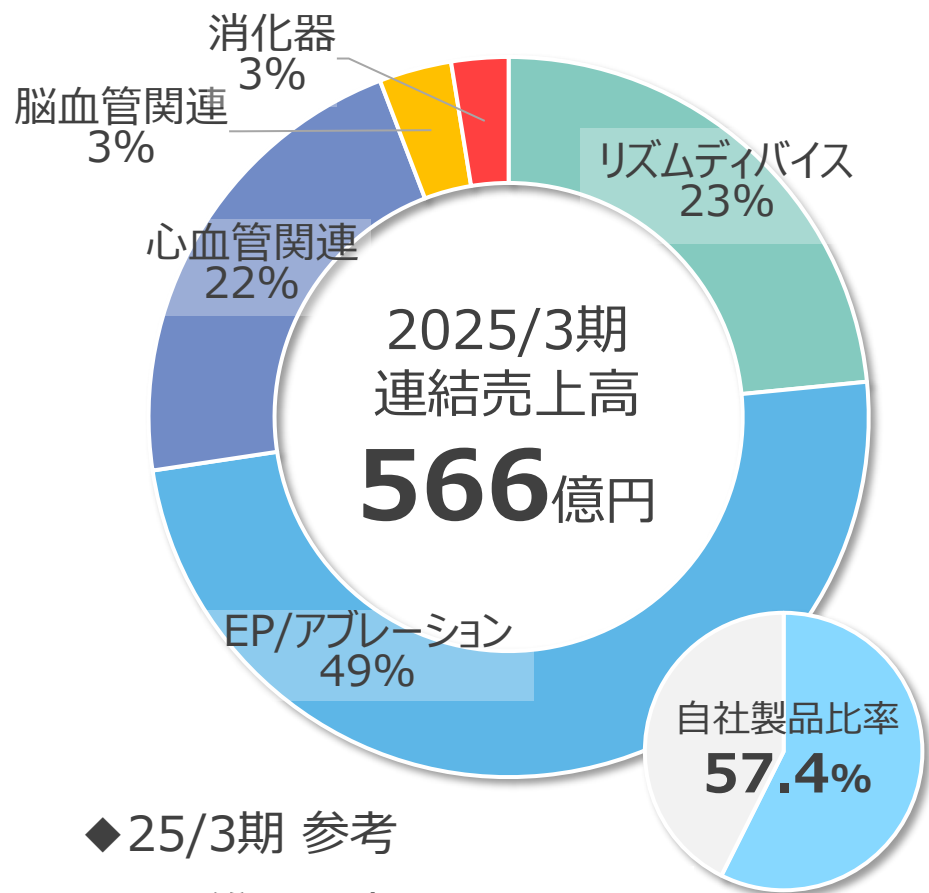
商社+グローバルメーカー
2024年-

海外の優れた医療を日本へ

医師のニーズに応え医療機器を自社製造し、独自の付加価値を創出

成長領域の拡大

✓ メインは心臓疾患(全体の94%)、近年は脳血管や消化器などの新領域にも進出中



◆ 25/3期 参考

売上総利益率 60.4%

営業利益率 21.8%

	対象疾患	主な製品	自社製品比率	事業位置づけ
既存領域	リズムデバイス	ペースメーカーやICD 	0%	安定事業
	EP/アブレーション	心腔内除細動カテーテル 	85%	中核事業
	心血管関連	人工血管 	60%	中核事業
新領域	脳血管関連	塞栓用コイル 	0%	成長事業
	消化器	胆管チューブステント 	95%	成長事業

- ✓ メーカー機能で安定した競争基盤を構築しつつ、商社機能で戦略的商品をスピーディーに導入。これにより、ポートフォリオ全体で高い競争力を維持

メーカー



- 独自技術で医師が操作しやすい機器を製造販売
- 心臓領域に特化 (消化器領域にも応用中)
- 毎回の手術で使うベーシックなラインナップを網羅



商社



- 海外の革新的な機器を素早く国内に導入 (日本の現地法人の機能をフルパッケージで提供)
- 長期独占販売契約
- 戦略的に自社製品ポートフォリオのすき間を埋める

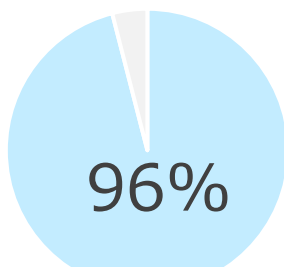
✓ メーカーと商社の**コア製品群**で、高い市場シェア*1を獲得(全社売上高の45%程度を占める)

メーカー

心腔内除細動
カテーテル



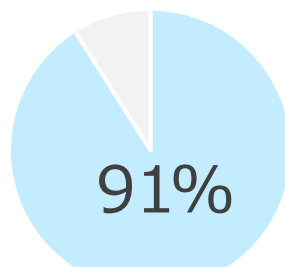
国内シェア



Frozen Elephant
Trunk



国内シェア

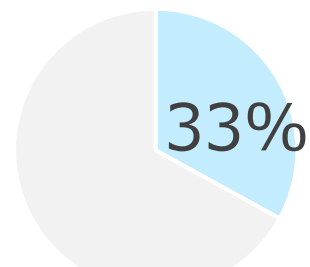


商社

植込み型除細動器
(ICD)



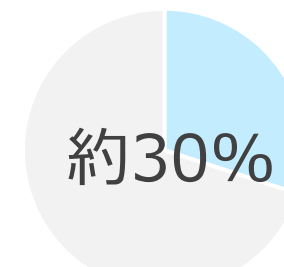
国内シェア



静脈止血デバイス



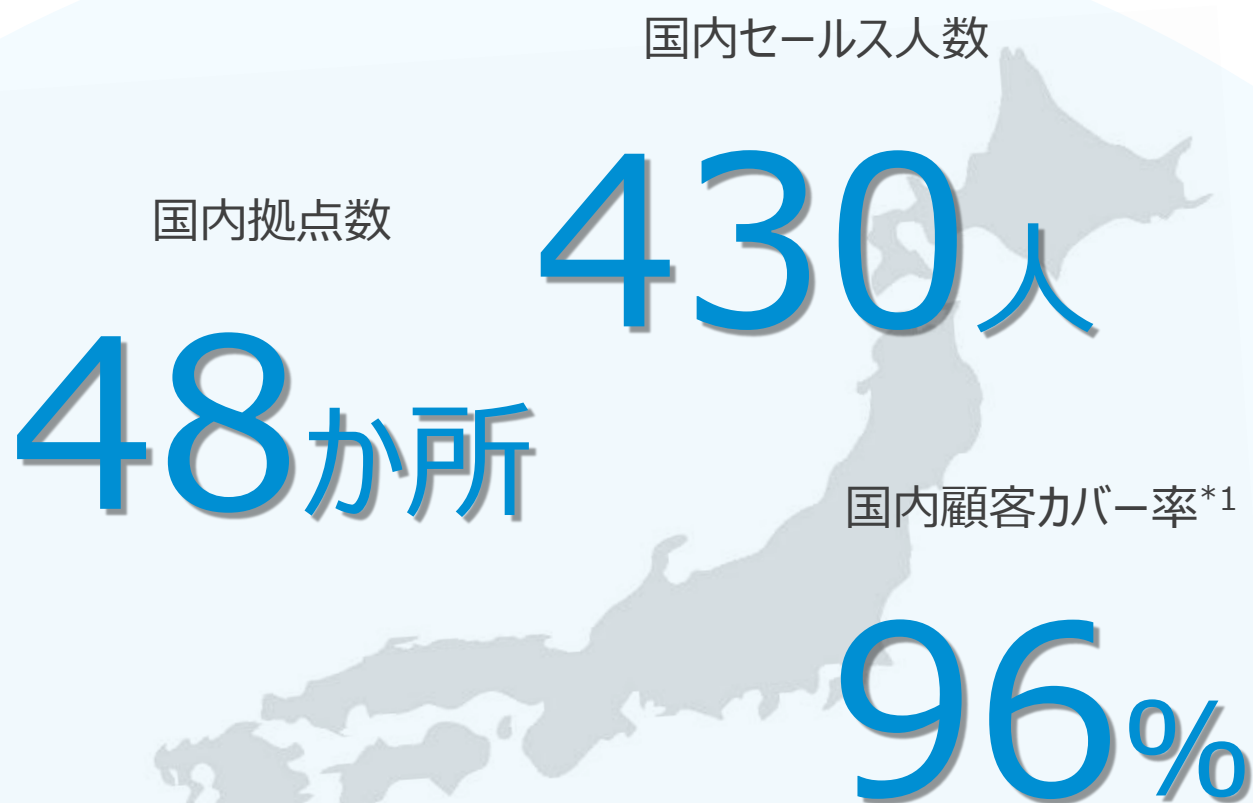
AF症例シェア



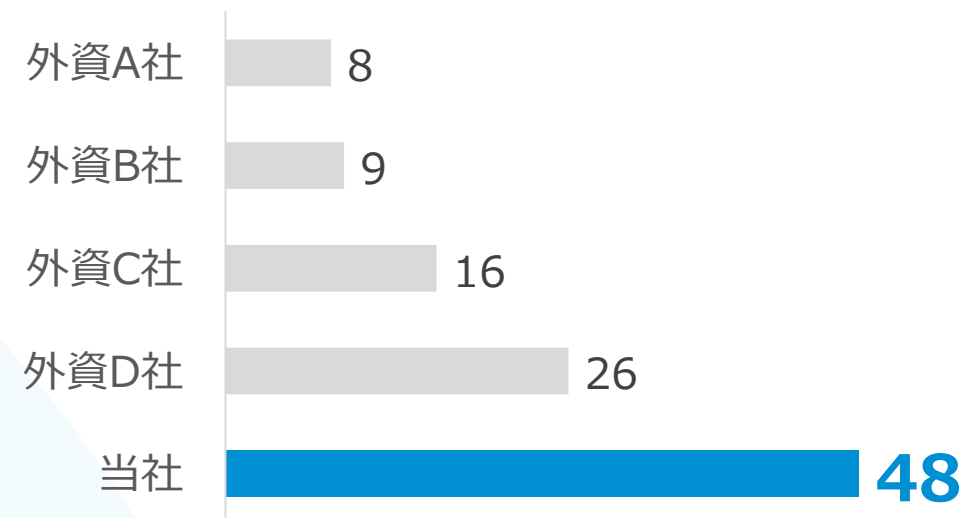
*1 市場シェアは2025年3月時点での自社推計

強み② 業界No.1の販売力

- ✓ 業界トップクラスの営業網を構築し、自社セールスが地域ごとにきめ細かく対応
- ✓ 製品の緊急度が高いため、「いつでも顔の見える営業」は安心と信頼の付加価値を創出



当社と主な競合外資の営業拠点数の比較



出所：各社ホームページをもとに弊社作成（2025年6月）

*1 国内で不整脈手術(アブレーション実施施設)を実施する約770施設、心臓外科手術を実施する約560施設に対する販売実績をもとに当社推定（2023年）

- ✓ 医療機器が手術で使用される度に売上発生 ⇒ **売上は手術件数(=症例数)に連動**
- ✓ 手術件数は中長期的に増加トレンドが継続する見通し

収益モデル

JL Japan Lifeline



全国の営業拠点

① 直接営業
在庫預託



当社セールス

医師

医療機関



② 手術で使用

※ここで売上を認識

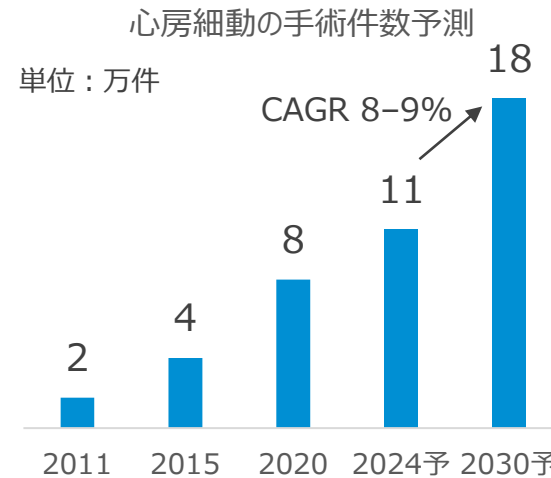
③ 支払

※販売代理店を經由



収益ドライバー：手術件数

心房細動の潜在患者数
100-170万人



出所：自社調査を元に推計

- 年間の手術件数10万件前後に対して潜在患者数は10倍以上
- 無自覚で未治療の「予備軍」が多く、近年は、ウェアラブル端末の発達により、患者の掘り起しが進んでいる

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

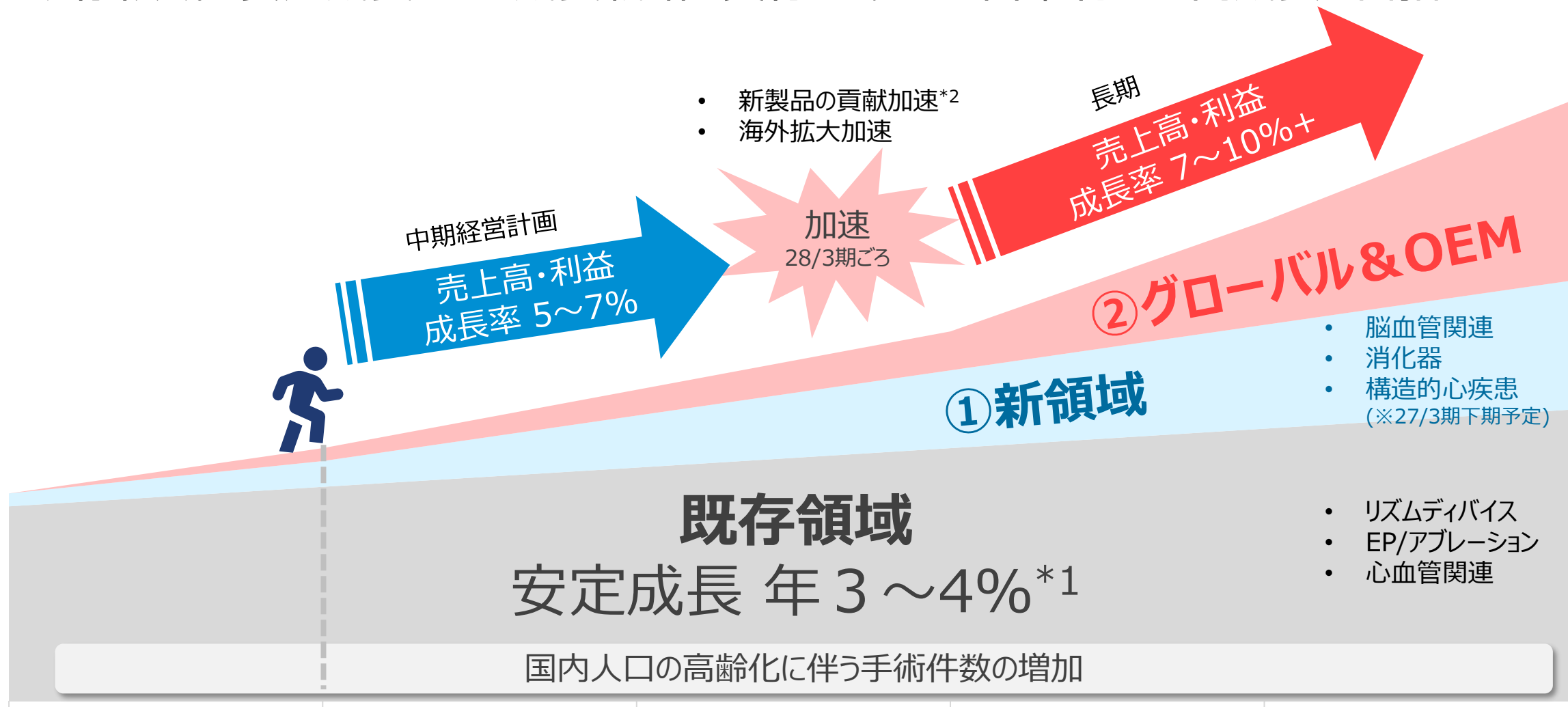
◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。



✓ 既存領域で安定成長しつつ成長戦略を実行し、売上・営業利益の高成長を目指す



23/3期

25/3期(現時点)

28/3期(現中計最終年)

長期

*1 中長期の平均成長率のイメージ。単年度では公定価格改定や特定製品の販売開始・終了等の要素により、上下にブレる可能性がある *2 リードスペースメカ(リズムデバイス)、PFAカテーテルOEM輸出(EP/アブレーション)、フローダイバーター(脳血管関連)、経カテーテル生体弁(構造的心疾患)など

中期経営計画(2024/3期～2028/3期) 数値目標

✓ 2025/5に計画最終年の目標値を上方修正

	2025/3期 実績	2028/3期		修正内容	修正の主な理由
		旧目標 (2023/5設定)	新目標 (2025/5設定)		
売上高	566億円	630億円	700億円 3年CAGR7.3%	+70億円	<ul style="list-style-type: none"> AF症例数の想定を上方修正 (5年CAGR6%→9%) グローバル売上高の伸長
新領域売上高	32億円	80億円	110億円	+30億円	<ul style="list-style-type: none"> 経カテーテル生体弁 (TAVI/TAVR)への参入
営業利益率	21.8%	20%水準 (毎期)	20%水準 (毎期)	変更なし	—
EPS	131円	120円	145円	+25円	<ul style="list-style-type: none"> 売上高成長に伴う利益成長
ROIC	13.7%	12.0%	13.0%	+1.0pp	<ul style="list-style-type: none"> 粗利率と棚卸資産効率の改善に向けた取組みを推進

✓ 従来戦略に加え、新しい4つの戦略を推進。中長期の成長ドライバーとして取り組む

24/3期

25/3期

26/3期

27/3期

28/3期

29/3期以降

中核事業の競争力強化(EP/アブレーション&心血管関連)

①既存領域

米CardioFocus社とのPFA製品の共同開発

海外向けOEM

国内販売開始

自社ブランド

②新領域

脳血管領域のポートフォリオ確立

消化器領域のポートフォリオ確立

構造的心疾患領域への参入

③グローバル

グローバル売上高の拡大

中東/アジア

欧米

④OEM

他社ブランド製造受託(OEM戦略)を推進

複数プロジェクトを検討中

✓ 症例数(市場)は5年CAGR9%の高成長を予想。コア製品の拡大を通じて成長を取り込む

施策①

自社No.1をさらに強化

自社品

心腔内除細動カテーテル BeeATシリーズ



名称	SVC BeeAT	Lumen BeeAT	IVC BeeAT
リリース	2012年	2024/1	2024/4
モデル構成比	55%	10%	35%
挿入部位	首	首	足
競争	2社(当社除く)	当社のみ	当社のみ
戦略	SVCモデルから高付加価値のLumenモデルとPFAで選好されやすいIVCモデルへ販売を切替え、参入障壁を構築		

施策②

新市場を開拓

仕入品

大腿静脈用止血デバイス VASCADE MVP



従来の止血法

手で押さえる
⇒長時間の
安静が必要

新しい止血法

早期止血
早期歩行
早期退院

- アブレーション手術後の止血ニーズに応える
- 推定市場規模40-50億円を開拓へ

① 既存領域 中核事業の強化 - EP/アブレーション

✓ 競争力ある製品でパルスフィールドアブレーション(PFA)にも参入を目指す

施策③

米CardioFocus社とPFA製品を共同開発し、グローバル市場で販売

2025/5 追加

JL Japan Lifeline

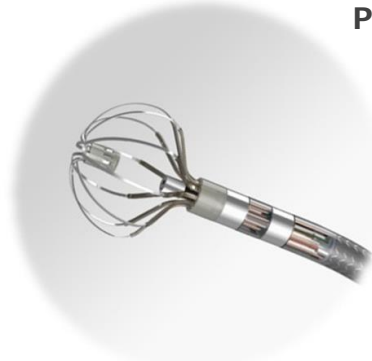
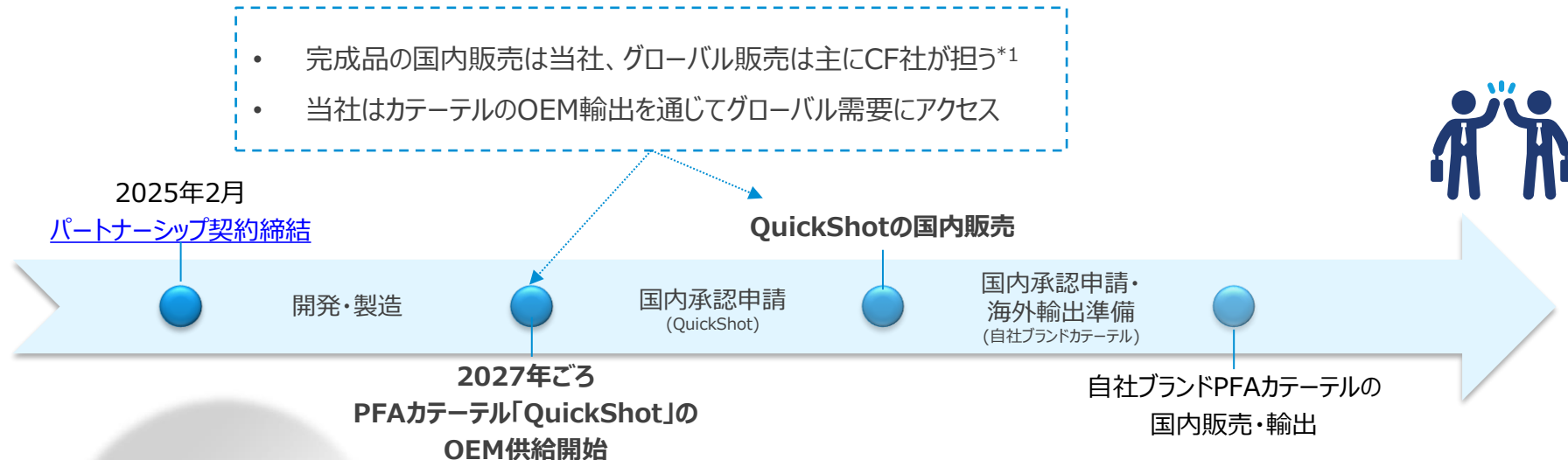
機能性・操作性の高い
カテーテル開発・製造に強み

戦略的パートナーシップ

CARDI*FOCUS

PFAカテーテル・出力装置・
PFA臨床ノウハウに強み

- 完成品の国内販売は当社、グローバル販売は主にCF社が担う*1
- 当社はカテーテルのOEM輸出を通じてグローバル需要にアクセス



PFAカテーテル
(CardioFocus社製/当社OEM)
「QuickShot」
※日本国内未承認品



PFA関連 潜在市場規模*2

- 日本: 約600~800億円
- 世界: \$70~120億ドル



*1 韓国・台湾での販売権は当社が持つ *2 出所：日本市場は自社推計、世界市場はClarivate

PFA(パルスフィールドアブレーション)とは？

- ✓ PFAとは、不整脈の新しい治療法。従来より合併症リスクが低いため、急速に普及が進む*1
- ✓ 当社はPFAは未導入であり、短期的にはややネガティブな影響を受ける

	従来の治療*2	新しい治療 (PFA)
国内承認	1994年	2024年
エネルギー	熱	パルス電圧
合併症リスク (相対的)	大 (心筋以外の組織を損傷)	小 (心筋のみを選択的に治療)
手術時間	2-3時間	1-2時間
参入企業 (25/6時点)	当社含む各社	<ul style="list-style-type: none"> ・ ジョンソン・エンド・ジョンソン ・ 日本メドトロニック ・ ボストン・サイエンティフィックジャパン

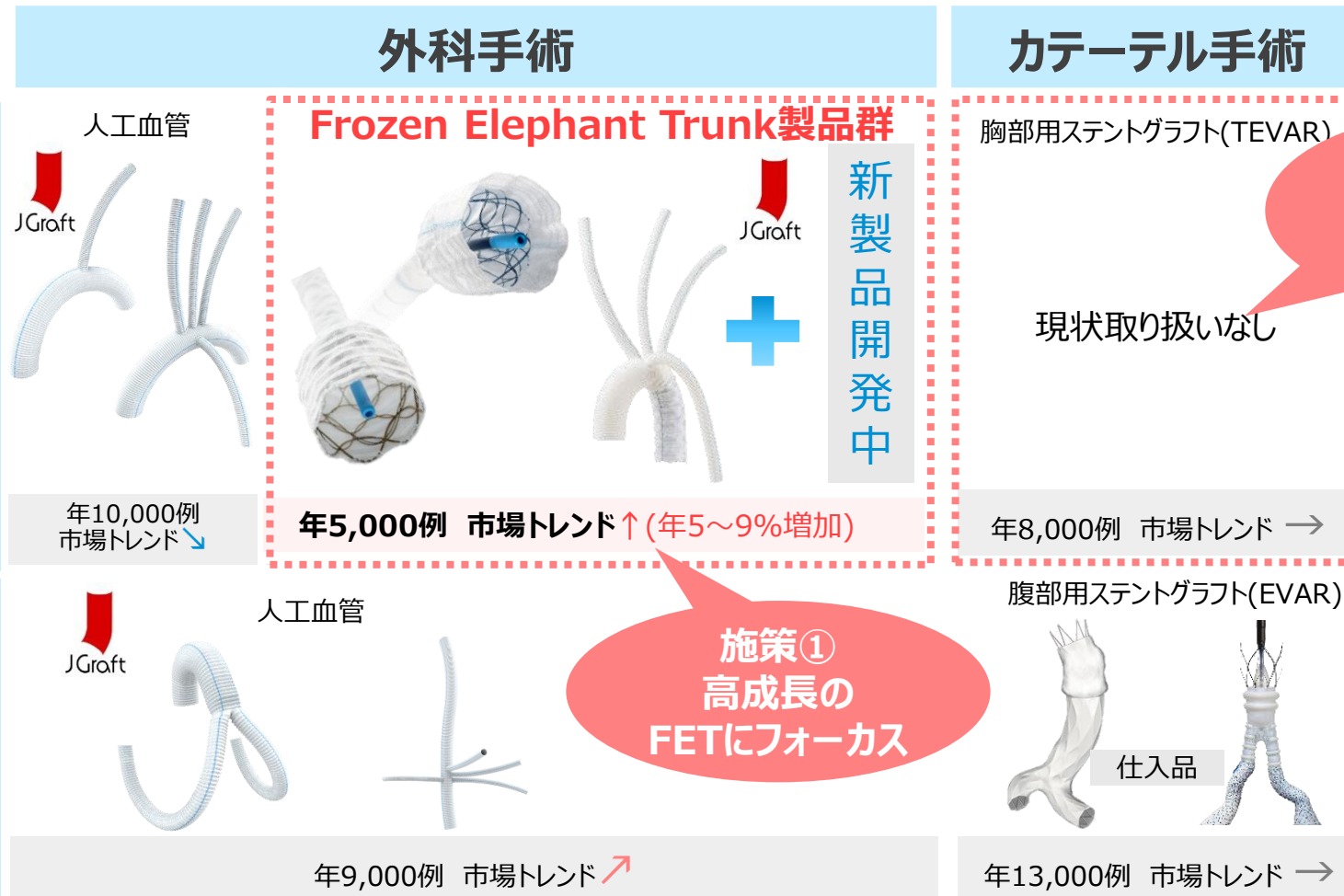
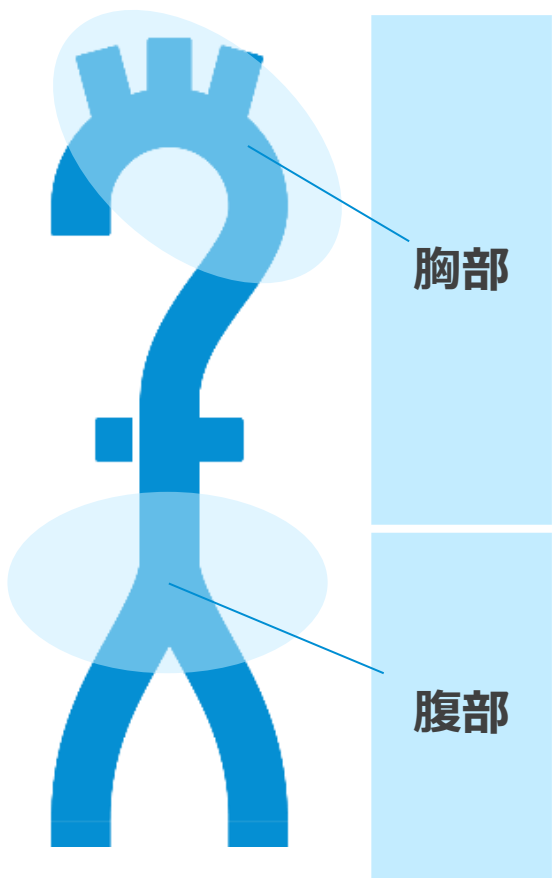
当社EP/アブレーション事業への影響			
サブカテゴリ	主な品目	売上目安*3	影響
EPカテーテル	食道温モニタリングカテーテル	25億円	ネガティブ (PFAでは必要ない)
	心腔内除細動カテーテル	150億円	ややポジティブ (中期的に症例数増加の恩恵)
	上記以外 診断カテーテル	50億円	ややネガティブ (一部の製品が使われない)
アブレーションカテーテル	高周波カテーテル	数億円	ネガティブ (PFAに代替される)
その他	止血デバイス	20億円強	ややポジティブ (中期的に症例数増加の恩恵)

*1 2025/3時点の普及率は約35%(症例数ベース) *2 主にラジオ波高周波(RF)。ホットバルーン、レーザーバルーン、クライオバルーンなども含む *3 目安は25/3期の実績

① 既存領域 中核事業の強化 - 心血管関連

- ✓ 高成長のFrozen Elephant Trunkにフォーカス。胸部用ステントグラフトにも再参入へ
- ✓ フルラインのポートフォリオを構築し、あらゆる症例に対応可能なリーディングカンパニーを目指す

大動脈のイメージ



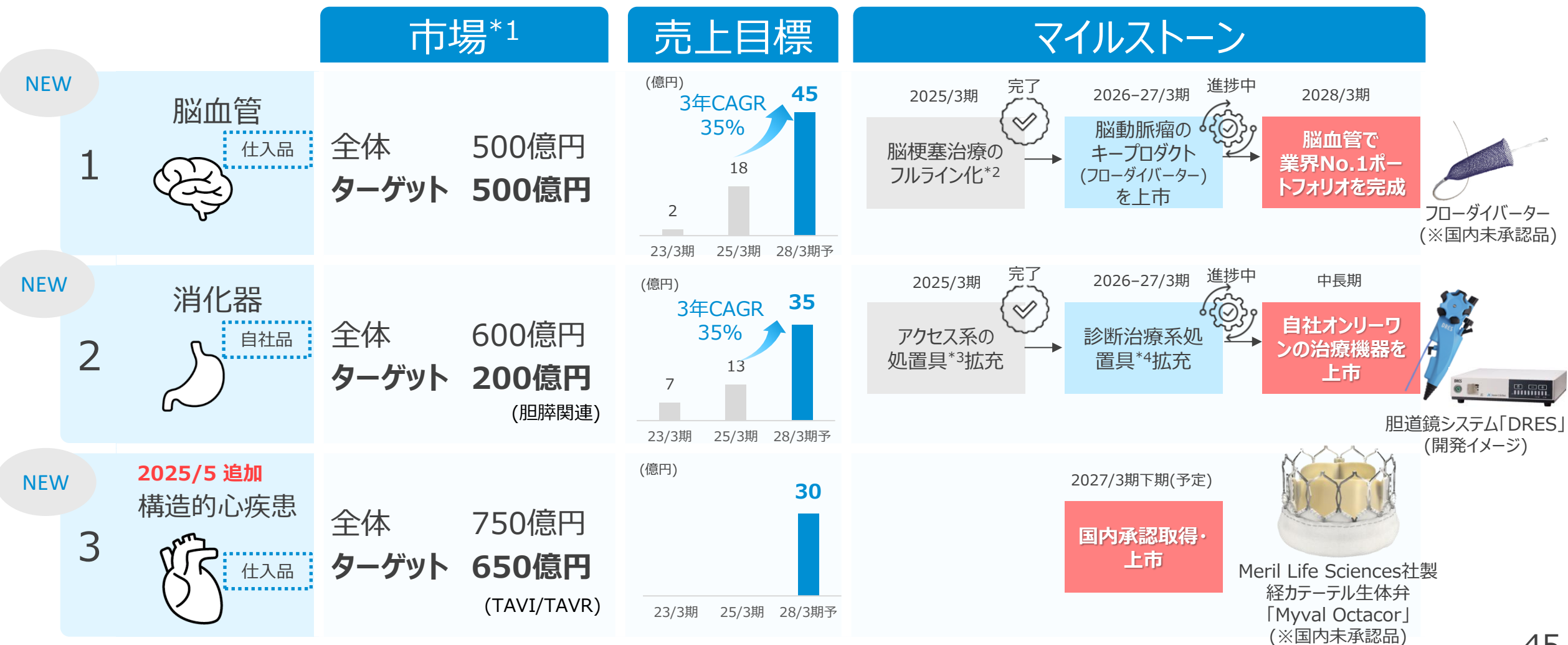
施策②
競争力ある
製品で再参入へ

施策①
高成長の
FETにフォーカス

* 各症例数は自社推計

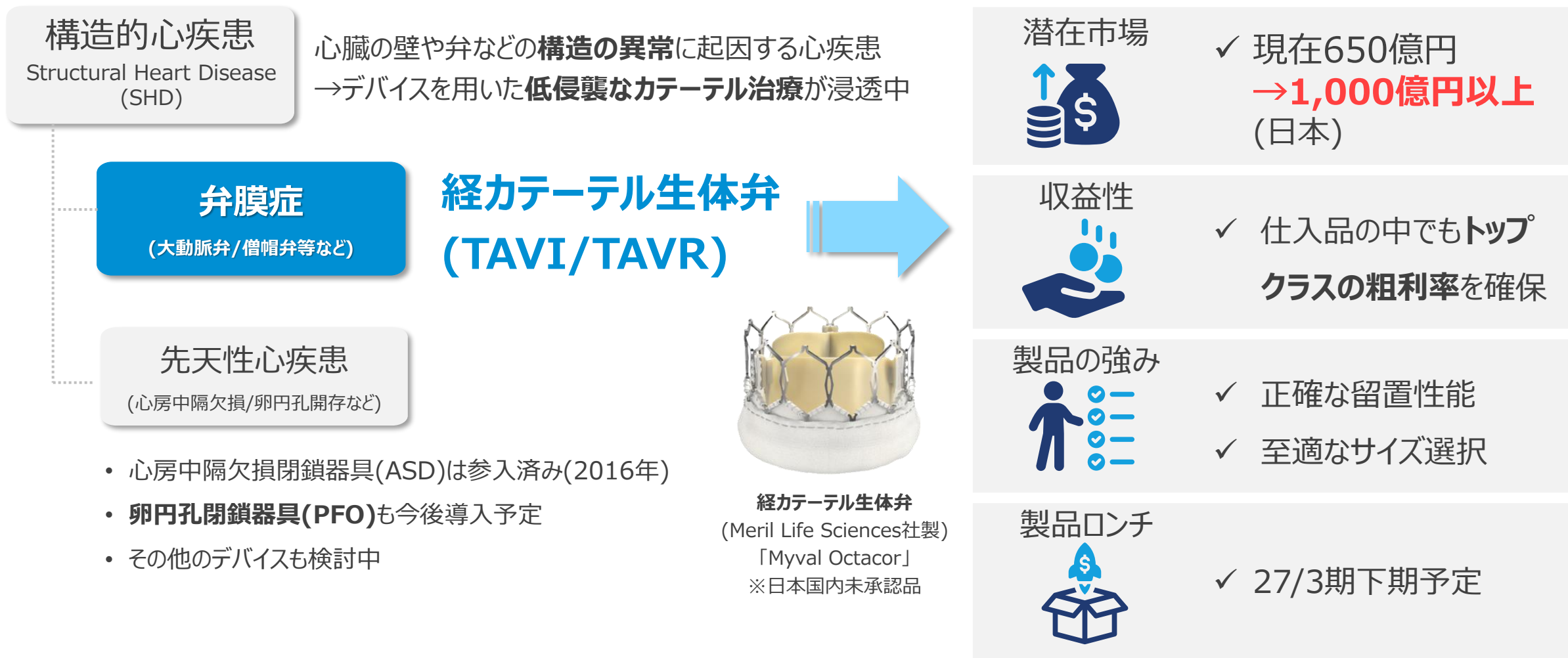
②新領域 - 3つの市場を開拓

✓ 各市場で早期の製品ポートフォリオ確立を目指す



*1 2025年当社推定 *2 血栓吸引カテーテルおよびステントリトリバー *3 ガイドワイヤ、ダイレータ、バルーンなど *4 結石回収、ステント、胆道鏡など

✓ 印Meril社とTAVI/TAVR製品*1を皮切りに構造的な心疾患領域を今後開拓へ



*1経カテーテル的大動脈弁植込術 (Transcatheter Aortic Valve Replacement/Implantation)

③グローバル売上高の拡大

2025/5 追加

✓ 中長期的に除細動カテーテルなどのコア製品の米国輸出を目指す

～28/3期

中東・アジアの販路立上げ
(進行中)

- ✓ 国内承認で展開できる中東・アジアの10数か国へ**現地販売代理店を通じた展開**
- ✓ EP/アブレーション、心血管関連、消化器の幅広い自社製品が対象
- ✓ FDA承認・CE承認取得のための**QMSR(品質管理システム規制)**への対応
- ✓ グローバル供給を見据えた**製造キャパの拡大**

中長期

欧州・米国市場へ進出

- ✓ 自社製品の**米国FDA/欧州CE承認取得**
- ✓ 国内で圧倒的なシェアと実績を持つ**除細動カテーテルやFrozen Elephant Trunk製品の輸出**
⇒日本の最新の知見(手技)を海外に発信・普及させ、市場を開拓

(百万円)

698 743 1,084

23/3期 24/3期 25/3期 28/3期

中期経営計画 24/3期～28/3期

20～30億円

手技輸出の壁

海外売上高比率

30%

長期

1. 事業ハイライト

2. 戦略ハイライト

3. 業績ハイライト

◆「インベスターズガイド」とは？

—当社を初めて知る投資家様向けに、事業や戦略のポイントを分かりやすく説明する資料です。

フルバージョンは、[こちら](#)からご覧いただけます。

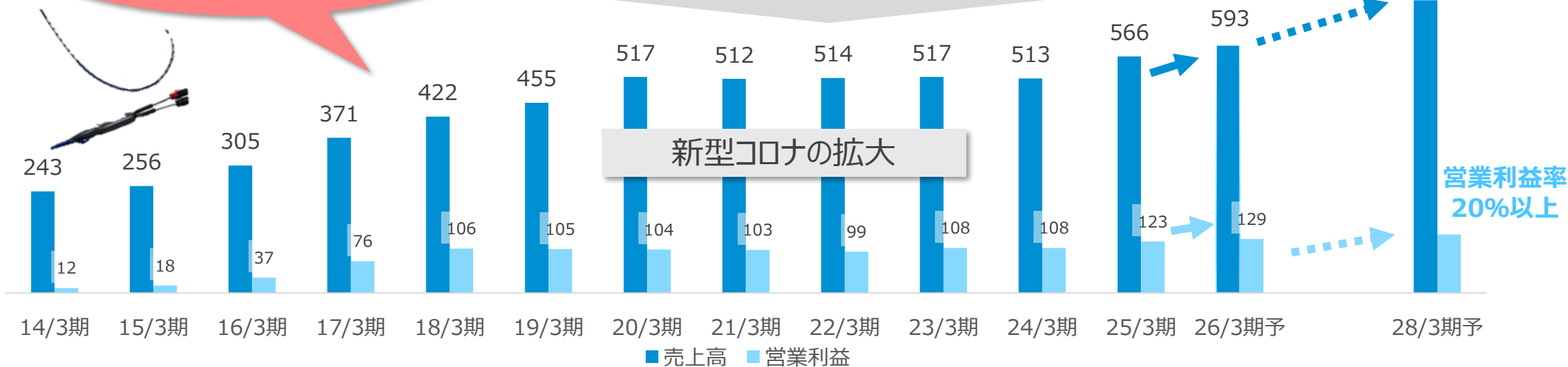


✓ 症例数の増加を契機に**自社製品で大きく成長**。ポートフォリオ改革で業績は一時横ばいも、足元は新領域を強化する等の**成長戦略を打ち出し、新たな成長フェーズに向かう**

売上高と営業利益の実績推移 (億円)

- (+) 心房細動症例の継続的な増加 (年数%-10%)
- (+) リズムデバイスの仕入先変更 (20/3期)
- (+) 消化器・脳血管領域への新規参入
- (-) 新型コロナの拡大 (20/3期-23/3期)
- (-) インターベンション事業の不振 (24/3期で終了)
- (-) 一部仕入商品の独占販売終了(胸部ステントグラフト、人工心臓弁：19/3期、RFコードル：23/3期)

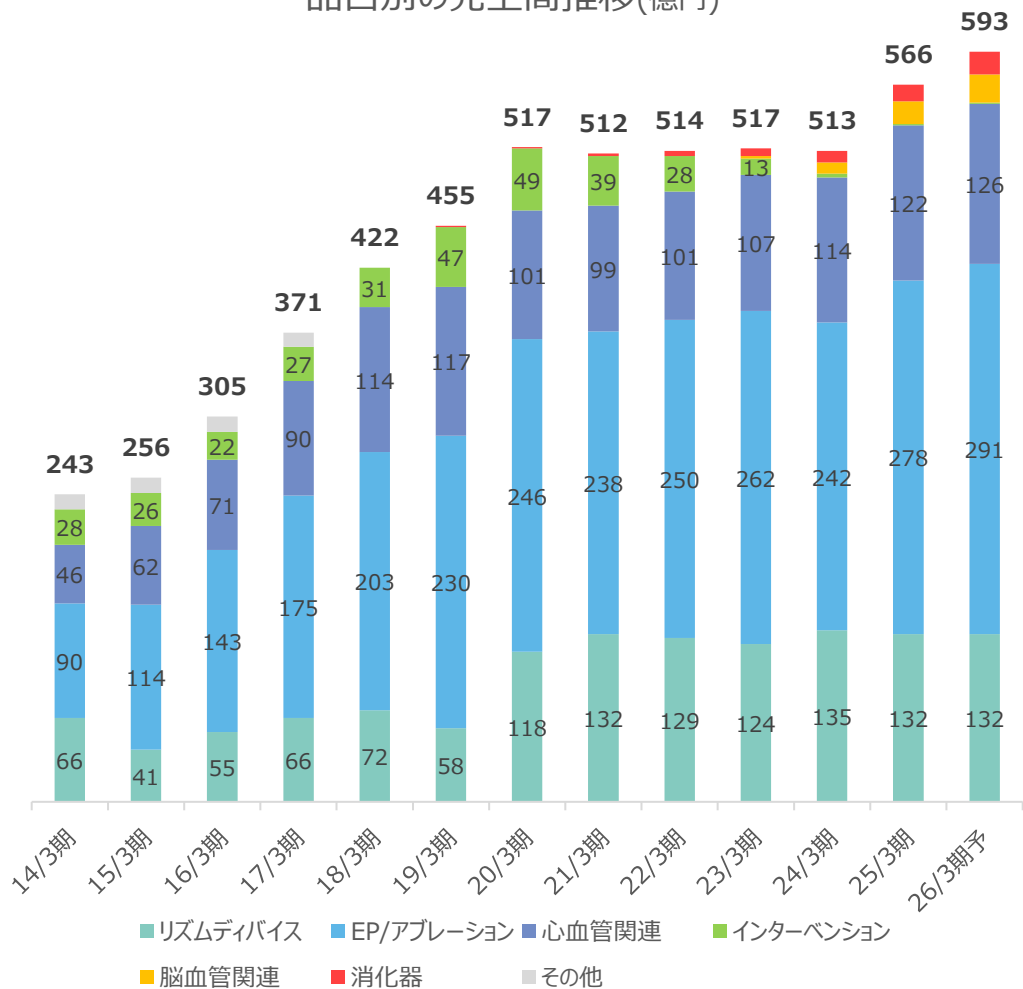
心房細動症例数の増加
(年20%以上)
に伴う**オンリーワン自社製品**
の急拡大



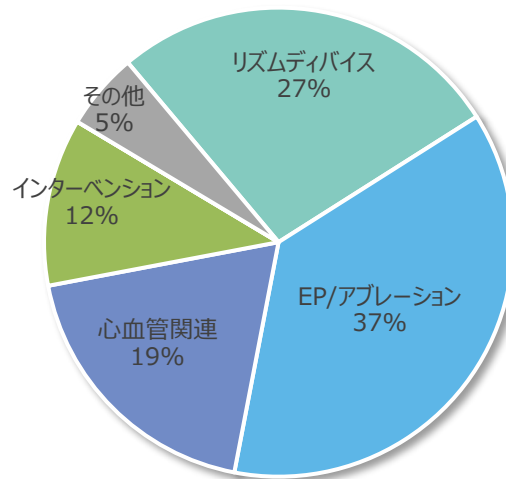
← **業績拡大期** → ← **ポートフォリオ改革期** → ← **業績再拡大期** →

✓ 中核のEP/アブレーションを強化しつつ、成長戦略でポートフォリオの新陳代謝も推進

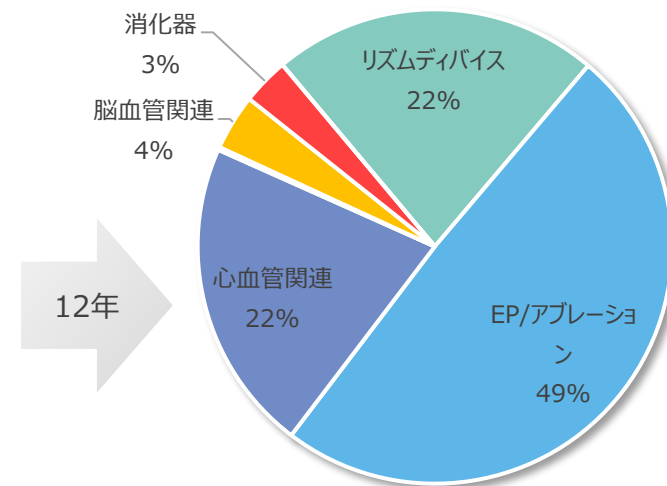
品目別の売上高推移(億円)



2014/3期 売上構成比



2026/3期 売上構成比(予)

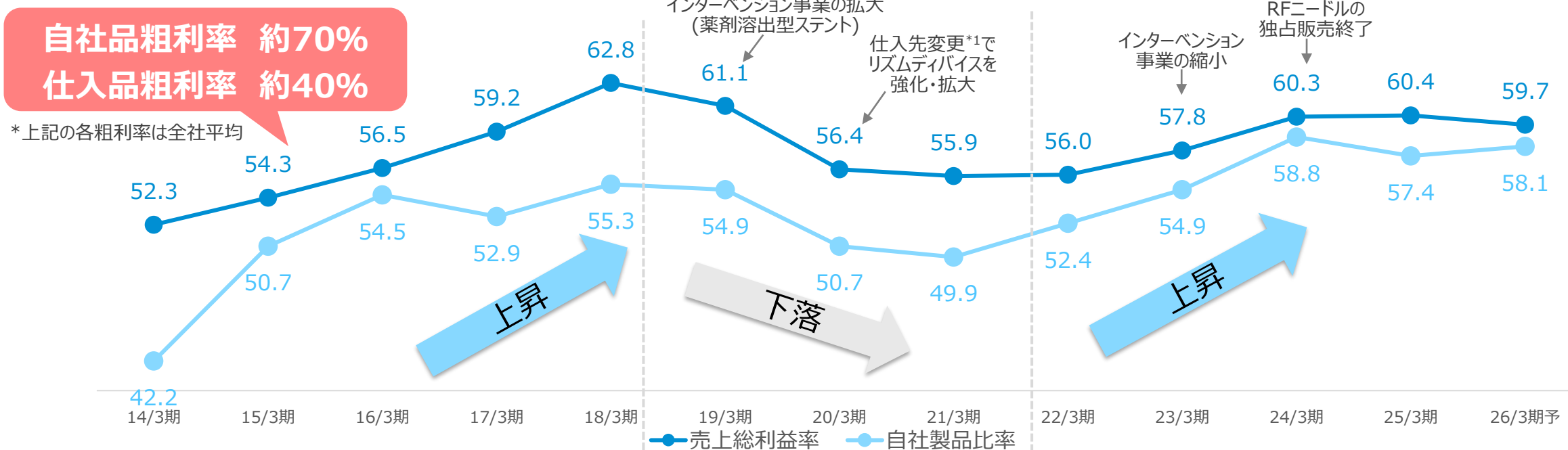


◆ 売上構成比の過去12年間における変化

- EP/アブレーションは売上高の半分を占める中核事業に成長
- 競争激化や価格下落による影響でインターベンションから撤退あわせて、人的資本もインターベンションから消化器へシフト
- 消化器と脳血管は成長事業と位置づけ、拡大開始

✓ 全社マージンは短～中期では仕入品の動向の影響を受ける。一方、自社製品売上に連動する症例数は増加傾向にあるため、**長期のマージンのベーストレンドは上昇**

売上総利益率と自社製品比率の推移(単位：%)



自作品粗利率 約70%
仕入品粗利率 約40%

*上記の各粗利率は全社平均

*1 MicroPortとの独占販売契約を終了し、2019年10月からBoston Scientific社製品に切り替え

仕入品の拡大

- ・ インターベンション事業の拡大
- ・ リズムデバイスの拡大

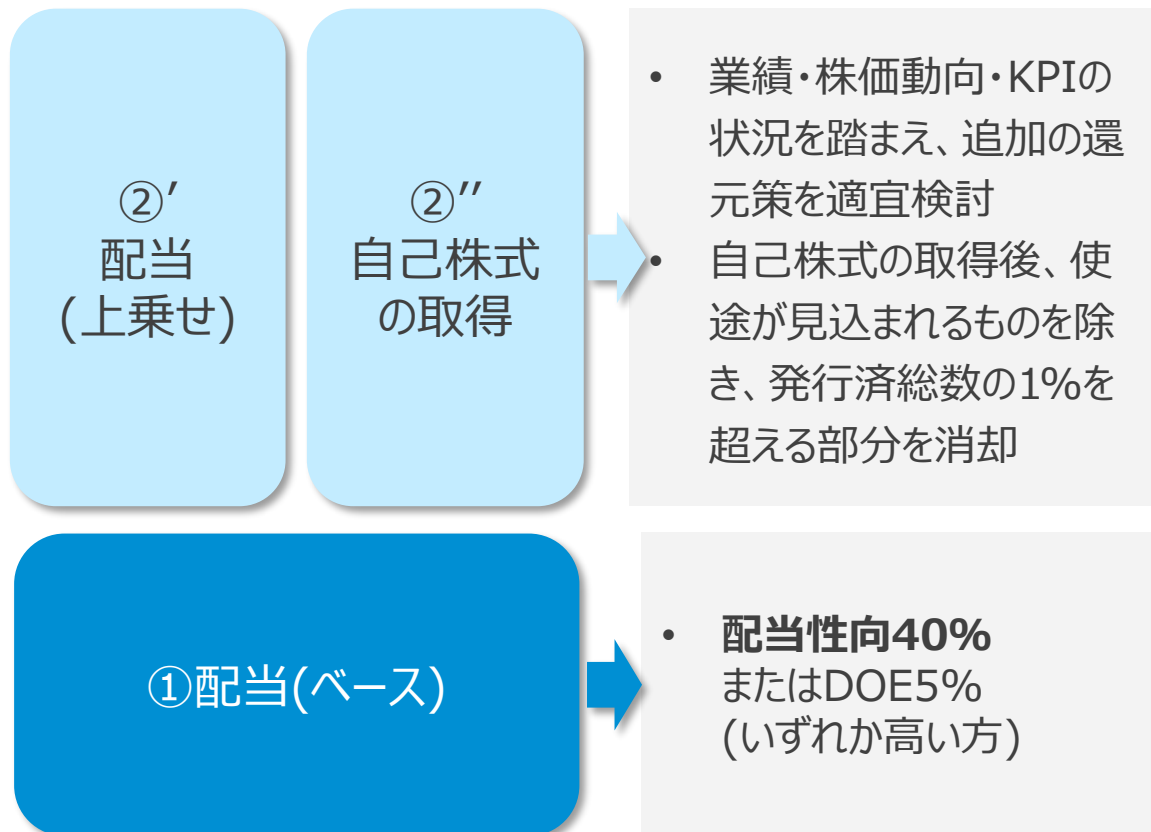
不採算事業(仕入品)の整理等

- ・ インターベンション事業の縮小
- ・ RFニードル(仕入品)の独占販売終了

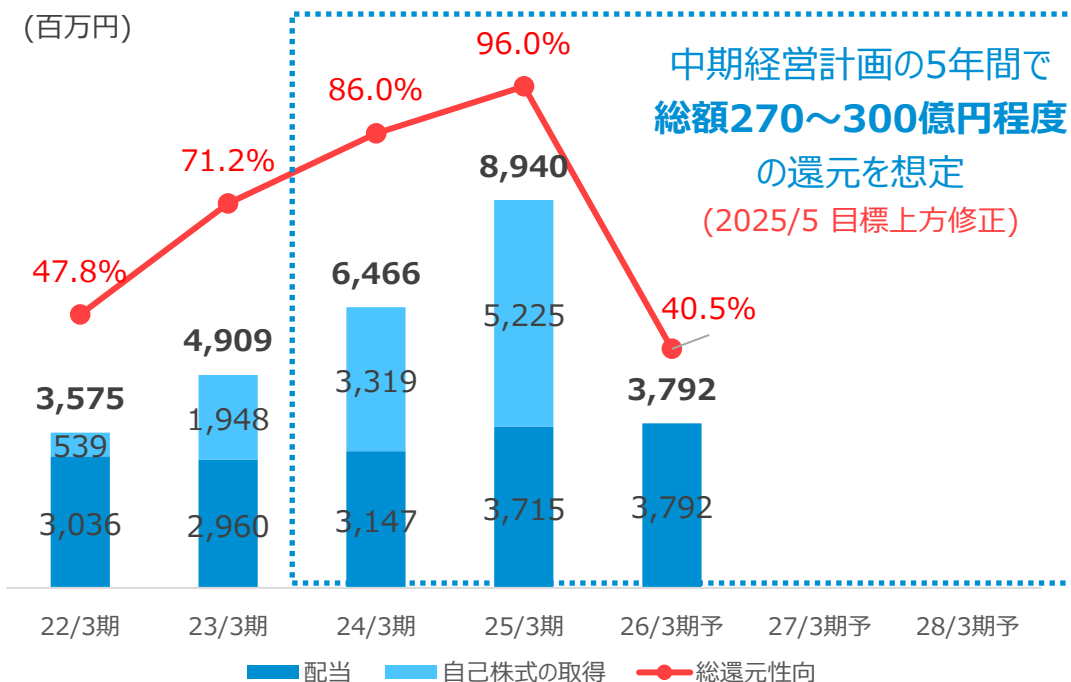
ベーストレンド：症例数増加⇒自作品増加⇒マージン上昇

- ✓ 中期では株主還元を大幅に強化へ。ベースとなる配当は配当性向40%
- ✓ さらに、配当の上乗せや自己株式の取得オプションを適宜検討

◆株主還元の基本方針



株主還元の実績



参考) 配当実績	22/3期	23/3期	24/3期	25/3期	26/3期予
EPS(円)	93.13	88.22	98.73	131.43	133.30
配当(円)	38.00	38.00	42.00	53.00	54.00
配当性向(%)	40.8	43.1	42.5	40.3	40.5

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長 鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア
設立	1981年2月6日
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7575
事業内容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資本金	2,115百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結1,250名/単体1,004名(2026年3月31日 現在)
事業所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティクスセンター、関西ロジスティクスセンター、研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、天王洲ACCADEMIA(研修センター)(2026年3月31日 現在)
連結子会社	JLL MALAYSIA SDN. BHD.

ご注意事項

本資料に記載されている内容の中で、歴史的事実ではないものは、当社の将来に対する予測です。特に、新商品や製品の導入、治験、薬事承認、そして発売時期については、過去の経験や利用可能な情報に基づいて当社が予測しています。しかし、様々な要因により、実際の業績は本資料で述べられている見通しと異なる可能性があります。そのため、これらの見通しに過度に依存しないでください。また、本資料には未承認の製品に関する情報が含まれている場合があります。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>